

茨城県
獣医師会
会報

JOURNAL OF THE
IBARAKI VETERINARY
MEDICAL ASSOCIATION

No.81

5.2014

公益社団法人 茨城県獣医師会



獣医師の誓い—95年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

- 1 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
- 2 ヒューマン・アニマル・ボンド 人と動物の絆を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
- 3 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
- 4 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
- 5 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。



日本獣医師会・獣医師会活動指針

－ 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。－

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興・再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い－95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WCS）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

茨城県獣医師会会報 第81号 目次

<会務報告>	
公益社団法人茨城県獣医師会第6回総会開催	3
平成25年度(第2回)正副支部長会議開催	5
<行政機関情報等>	
監視伝染病の発生について	8
豚の反芻獣ペスチウイルス感染事例におけるウイルス検査について	11
「茨城県動物の愛護及び管理に関する条例」の一部が改正されました	13
<職場紹介>	
動物衛生研究所と獣医師の役割	佐藤真澄 15
<部会・地区便り>	
ブロック活動報告	17
支部活動報告	19
<随筆・随想等>	
もしもまほうがつかえたら きくち もえ	宇佐美 晃 23
平成25年6月5日の取手市立戸頭東小学校での動物ふれあい教室に参加して	後藤貴司・千装 勉 24
国旗日の丸と日本の祝祭日について思う	諏訪綱雄 25
進化の代償	菅原茂美 26
<本会情報>	
平成25年度茨城県獣医師会事業実施報告	36
<福利厚生事業>	
会員の福利厚生事業報告	48
会員計報	48
平成25年度茨城県獣医師会新入会員紹介	49
平成25年度茨城県獣医師会退会者	49
所属変更	49
<動物名のルーツを探る>	
シリーズ25 タラ	29
シリーズ26 オコジョ	45
<こぼればなし>	
危うきかなY染色体	7
温暖化の恐怖	12
「使い捨ての乗り物」	14
新芽を踏みつぶすな	16
ポケ促進社会	40
「教育」の任務	47
<編集後記>	55

茨城県獣医師会会訓

1. 茨城県獣医師会は、会員の団結と和を基本理念とする伝承を継承して、秩序ある運営をはかり堅実な事業の発展を期する。
2. 茨城県獣医師会は、動物愛護を通じて社会貢献につとめ、同業相互協力の精神を保持する。
3. 茨城県獣医師会会員は、最新学術の研修につとめ、獣医師の誇りと品格を高揚する。

公益社団法人茨城県獣医師会第6回総会開催

日時：平成26年3月25日（火） 午後2時～

場所：つくば国際会議場（つくば市竹園2-20-3）

【小林貞雄会長挨拶】

*会員各位には年度末、御多忙の折、多数御出席いただき感謝します。

*会長就任後、総会開催が今回で5回目になり、この間、色々のことがありましたが、会員各位の御協力により、無事今日に至りましたことを、厚く御礼申し上げます。

*最近色々な行事がありました。

○関東ブロックの会議において、台湾での狂犬病発生に関する件、東日本大震災の後の獣医師会の対応の件、学校飼育動物支援対策の件などが協議されました。

○茨城県主催の狂犬病対策協議会が開催されました。また、狂犬病研修会が開催され、災害発生時の獣医師の役割など訓練が行われました。

○獣医師の待遇改善に関し日本獣医師会から、各県においても県議会などに対し改善要請をするよう通知があり、本県でもその準備をしているところですが、会員の皆様もご協力のほどお願いいたします。

*本日は第6回総会ということで、平成26年度事業計画・予算案など3議案を提出いたしますので、よろしくご審議願います。

【議事経過】

- 1 開会：吉田勝也副会長
- 2 物故者に対する黙祷
- 3 会長挨拶
- 4 議長選出
議 長： 勤務退職者支部・中澤和美
副議長： 第6支部 ・岡田佳之
- 5 議事録署名人は定款により総会出席理事全員
- 6 書記任命：吉井 豊（事務局）
- 7 議 事
- 8 閉 会：宇佐美晃副会長

【充足数報告】

会員数656名。65名出席、委任状提出362名、計427名なので総会成立を議長が宣言。

監視伝染病の発生について

農林水産部畜産課

本年4月、国内で平成23年以来3年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザが熊本県で発生しました。

また、昨年10月沖縄県で国内では7年ぶりに発生した豚流行性下痢は、本県も含め31道県で発生が確認され、哺乳豚で大きな被害が出ております。

今回、このふたつの監視伝染病の発生状況についてお知らせします。

1 高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) 家畜伝染病

(1) 農場概要

農 場	住 所	飼養羽数
発生疑い農場	熊本県球磨郡多良木町	肉用鶏56,000羽
飼養者が同一の農場	熊本県球磨郡相良村	肉用鶏56,000羽

(2) 経緯

- ・4月12日午後、熊本県は死亡増加等の通報を受けて発生疑い農場に立入検査を実施。
- ・インフルエンザ簡易検査で死亡鶏の5羽中5羽で陽性。
- ・当該農場に対し、移動制限指示。
- ・遺伝子検査をした結果13日、H5亜型であることを確認。
- ・当該農場の管理者は、別農場の管理を行っていたことから、当該別農場も疑似患畜の発生農場と判定。当該別農場についても移動制限指示。
- ・15日、動物衛生研究所の遺伝子解析の結果、高病原性鳥インフルエンザの患畜であることを確認。

(3) 熊本県の対応

- ・当該2農場の家きん殺処分及び焼埋却、それぞれの農場から半径3kmの移動制限区域、半径10kmの搬出制限区域の設定。
- ・移動制限区域内の農場に対し、速やかに発生状況検査を実施。
- ・感染拡大防止のため、発生農場周辺の消毒を強化し、主要道路に消毒ポイント設置。

(4) 本県の対応

- ・生産者等への情報提供。
- ・生産者へ電話による異常の有無の確認。
- ・防鳥ネット、農場出入り口の消毒等で指導を要する農場への立入り指導。

2 豚流行性下痢 (PED) 届出伝染病

その病性、発生状況及び防疫対策は次のとおりです。

(1) 原因 豚流行性下痢ウイルス

(2) 感受性動物 豚、イノシシ

(3) 症状

PEDの主な症状は水様性下痢で、臨床症状は伝染性胃腸炎 (TGE) と極めて類似しています。下痢

の発症率と致死率は哺乳豚で高く、日齢が進むにつれて低下します。

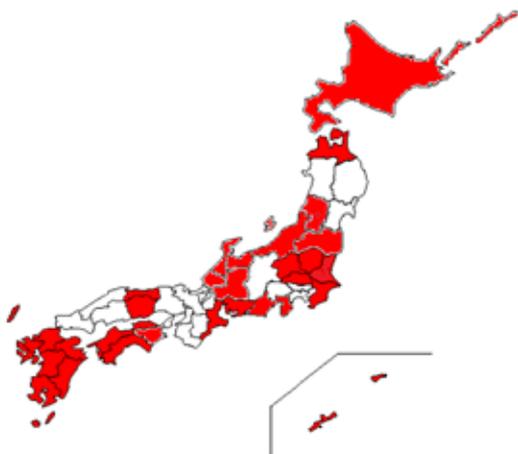
- ① 哺乳豚では嘔吐と下痢が見られ、特に10日齢以下の豚では黄色水様性下痢を呈し、急速な脱水状態となり、死亡率は50～100%に達します。
- ② 繁殖母豚では食欲減退や元気消失、下痢及び嘔吐がみられ、また泌乳の低下・停止が認められることもあります。
- ③ 肥育豚・育成豚では食欲減退と元気消失、水様性下痢が見られますが、1週間ほどで回復し、死亡はまれです。

(4) 発生状況

国内

日本では1982年にPEDを疑う子豚の下痢症が報告され、その後1990年代に流行が認められ、大きな被害が出ております。今回の発生は2006年以来の発生となります。

発生状況（平成26年4月14日現在）



発生県	初発事例確認日	発生件数	発症頭	死亡頭
沖縄県	平成25年10月1日	4	242	75
茨城県	平成25年11月18日	3	2,411	719
鹿児島	平成25年12月11日	145	165,000	27,000
宮崎県	平成25年12月13日	64	29,789	18,655
熊本県	平成26年1月28日	15	5,038	737
愛知県	平成26年2月16日	7	2,960	1,600
青森県	平成26年2月24日	1	14,662	2,224
高知県	平成26年3月4日	3	523	15
岡山県	平成26年3月13日	2	3,979	42
佐賀県	平成26年3月14日	9	5,498	1,926
大分県	平成26年3月16日	4	1,474	6,441
鳥取県	平成26年3月13日	1	178	79
福岡県	平成26年3月20日	3	706	51
長崎県	平成26年3月28日	3	1,500	128
埼玉県	平成26年3月28日	1	31	25
千葉県	平成26年3月27日	5	6,506	1,344
三重県	平成26年3月29日	10	6,185	1,824
香川県	平成26年4月2日	1	1,603	496
愛媛県	平成26年4月4日	2	908	359
栃木県	平成26年4月7日	2	8,864	4,172
群馬県	平成26年4月7日	3	5,376	957
新潟県	平成26年4月10日	4	2,315	35
静岡県	平成26年4月10日	3	1,506	301
石川県	平成26年4月11日	1	797	52
富山県	平成26年4月11日	2	19	5
山形県	平成26年4月12日	2	821	176
福島県	平成26年4月11日	1	34	2
岐阜県	平成26年4月14日	1	1,034	167
北海道	平成26年4月14日	1	—	—
合計		303	269,959	69,607

29道県で確定し、徳島県、福井県は確定診断実施中。

(平成26年4月14日現在)

アジア

1973年に中国、1992年に韓国で発生が確認され、その後ベトナム、タイ、フィリピン、台湾で発生がありました。2010年以降、中国では7日齢以下の哺乳豚を中心に発生があり、深刻な被害をもたらしています。

北米

2013年4月に米国オハイオ州ではじめてPED発生が確認され、急速な拡大により2014年3月26日現在、27州5,019件の発生が確認されています。また、カナダでは今年1月に発生が確認され、3月29日現在、4州46件の発生が報告されています。

欧州

1971年イギリス、1978年ベルギーで発生が確認され、その後チェコ、ハンガリー、ドイツ及びスペインなどで確認されていますが、散発的な発生であり大規模な発生には至っていません。

(5) 診断方法

- ・免疫組織化学的染色によるウイルス抗原の検出
- ・RT-PCRによる糞便中のウイルス遺伝子の検出

(6) 防疫対策

本病の防疫対策は飼養衛生管理の徹底が基本であり、あわせて以下の対策が必要です。

① 病原体侵入防止対策

- ・豚導入時、2～4週間隔離・分離し健康状態を確認する。
- ・豚、人、車両、作業器具等の出入りを管理する。
- ・農場出入り口での車両の洗浄・消毒を徹底する。
- ・畜産関係施設に出入りする作業員や車両の洗浄・消毒を徹底する。

② 消毒

- ・豚、排泄物の運搬車両については、タイヤ周りだけでなく、荷台、運転席マット等を含め、車両全体を十分洗浄・消毒する。
- ・逆性石けん系、アルデヒド系等、有効な消毒薬を適正濃度・頻度で使用するとともに、消毒前に水洗等で有機物の除去することで消毒効果をあげる。

③ 早期通報

- ・飼養衛生管理基準に基づき、毎日、飼養豚を十分観察することで、異状を確認した場合、直ちに管轄の家畜保健衛生所に通報をする。

④ ワクチン接種

- ・PEDワクチンは母豚に接種（分娩前2回）し、子豚が乳汁を介して免疫を獲得するため、母豚が十分乳を分泌しているか、子豚が乳を十分飲んでいるか確認する。

豚の反芻獣ペスチウイルス感染事例におけるウイルス検査について

茨城県県北家畜保健衛生所

○大谷 芳子 川西 菜穂子

【はじめに】平成24年2月、繁殖豚100頭、肥育豚1,000頭を飼養する県内の一貫経営の養豚場において、豚コレラ清浄性維持確認のため、豚コレラELISA（ELISA）を実施したところ、臨床症状や血液検査で異常が認められない豚群で48.3%と高い陽性率を示した。ウイルス検査等の結果、国内で初めて、豚からボーター病ウイルス（BDV）に近縁のペスチウイルス、所謂反芻獣ペスチウイルスが分離されたので、その概要を報告する。

【材料及び方法】病理解剖は抗体陽転が確認された繁殖母豚1頭、発育遅延の肥育豚5頭について実施した。RT-PCR検査は飼養豚363頭の血清、白血球、鼻腔スワブを材料として、豚コレラに関する特定家畜伝染病防疫指針の「豚コレラ診断マニュアル」（診断マニュアル）に記載されている324および326のプライマーを用いて実施した。RT-PCR陽性検体については、制限酵素Bgl I およびPst I で切断し、豚コレラウイルス（CSFV）と牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）を識別する方法を実施した。また、PCR産物のダイレクトシーケンスを実施して塩基配列の解析を行い、NCBIサイトでBLASTによる相同性検索を実施した。さらにMEGA4を用いて分子系統樹を作製した。分離培養はCPK細胞を用い、RT-PCR陽性検体および病理解剖豚の主要臓器を材料として4日間2代継代して実施し、ウイルス抗原の確認は培養上清のRT-PCR、遺伝子解析およびFAにより行った。また、一部の検体については、MDBK-SY細胞、BFM細胞にも接種した。FAは市販の豚コレラ-FA、BVDV-FA（VMRD社）、抗CSFVモノクローナル抗体および抗汎ペスチウイルスモノクローナル抗体（（独）動物衛生所（動衛研）から分与）を用いた。抗体検査は、ELISAおよび指示ウイルスとしてCSFV GPE-株、BVDV Nose株（1型）（BVDV1）およびBVDV KZ91株（2型）（BVDV2）を用いた交差中和試験（中和試験）を実施した。

【成績】RT-PCR検査の結果、4頭の豚からペスチウイルスに特異的な遺伝子（約280bp）が検出された。このPCR産物を制限酵素Bgl I およびPst I で切断したところ、220bp付近に切断され、豚コレラとの識別が可能であった。また、RT-PCR産物の遺伝子解析の結果、BDVに近縁のペスチウイルスと判明した。ウイルス分離検査では、4頭から反芻獣ペスチウイルスが分離された。分離ウイルスは使用した3種類全ての細胞で増殖したが、いずれもCPEは示さなかった。また、抗CSFVモノクローナル抗体を用いたFAは陰性だったが、その他のFAは全て陽性であった。ELISA陽性の50検体で実施した中和試験ではCSFVでは22頭（44%）で2～4倍、BVDV1では44頭（88%）で2～64倍、BVDV2では全て2倍以下であった。

【まとめ】今回のELISA陽性事例では、臨床症状や疫学状況などからは豚コレラを疑うものではなく、診断マニュアルに則した適切な採材と迅速な検査により、早い段階でCSFVの関与を否定し、豚の反芻獣ペスチウイルス感染事例として対策を取ることが出来た。診断マニュアルに則した検査を実施する中で、

PCR産物の制限酵素処理やFA、中和試験でCSFVと反芻獣ペスチウイルスの識別が可能であることが判明したものの、正確な診断をするためにはウイルスを分離又は検出してシーケンス解析することが必須である。また、防疫指針ではELISA陽性が確認された場合、中和試験を行うとともに、農場への緊急立入を行い、臨床検査と抗原検査を行うこととされており、いずれかの検査で陽性だった場合は、遺伝子検査等の結果を踏まえ、総合的に診断される。県で実施する検査ではCSFVとその他のペスチウイルスを正確には識別できず、総合的な診断を待つ間、農場において慎重な対応が求められる。また、抗原が検出されなかった場合、中和試験による抗体の識別が重要となる。しかし、CSFVに対する抗体との識別は可能であるが、反芻獣ペスチウイルスが国内に侵入していることが判明したことから、BVDVで検出された抗体がBVDVに対するものか、反芻獣ペスチウイルスに対するものかを判断することはできない。この状況を踏まえ、CSFVとそれ以外のペスチウイルスを識別する診断法の開発と現場への普及が急務であると考えられる。

こぼればなし

温暖化の恐怖

地球温暖化は、いかほどの害をなすのか？

豪雪地帯は、温暖化が進めば、除雪費や暖房費など、かなり助かるに違いない。北極航路が開設されたり、寒冷地でも温帯の農作物が栽培できる等、悪いことだけではないじゃないか…との話がある。しかし、局部的にはそうも言えるが、世界全体で見た時にはそうではない。温暖化が進み北極圏の氷が解けると、冬に、寒さを北極圏に閉じ込めておけなくなり、中緯度地帯で逆に冬の寒さが厳しくなる。事実この冬の積雪は記録的であった。勿論年々夏の猛暑は増すばかり。温暖化が進めば、低地の水没・干ばつや強烈な気候変動、絶滅危惧種が増すばかり。エネルギー問題・防災対策など難題山積。

そして何より怖いのは、マラリヤなど熱帯病が中緯度地帯にも蔓延し、ワクチンのない伝染病の防御が非常に難しくなる。オーストラリアのユーカリの木を枯らす真菌（クリプトコッカス・ガッティ）が、カナダのベイマツに寄生し、病原性を増し動物にも感染。バンクーバー島でネズミイルカや犬猫に肺炎を起こし、ついに人間にも感染。肺炎・脳炎を起こし、死亡率25～30%にも達した。熱帯の病原真菌は、1960年以来、年速7.5kmの異常速度で北進を続けているという。

（出典：日経サイエンス14年5月号、S・S）

「茨城県動物の愛護及び管理に関する条例」 の一部が改正されました

茨城県保健福祉部生活衛生課 環境・動物愛護グループ

昨年5月発行の本会報（No.79）でご紹介させていただきましたが、昨年9月に「動物の愛護及び管理に関する法律」が改正されました。法改正の大きな柱は、「終生飼養の徹底」と「動物取扱業者による適正な取扱いの推進」となっています。これらの法改正の趣旨を踏まえ、かつ本県の動物愛護管理行政の一層の推進を図るため、「茨城県動物の愛護及び管理に関する条例」の一部を改正しましたので、その概要をご報告いたします。なお、本条例改正は平成25年第2回定例会、第4回定例会及び平成26年第1回定例会の3回の県議会に上程し可決ご承認いただきました。

【条例改正の背景】

本県では、従前と比較し大幅に減少しているものの、犬猫の殺処分頭数は年間約6千頭（平成24年度）と非常に多く、特に犬は殺処分頭数が全国8年連続ワースト1位（平成17～24年度）であり、殺処分頭数の減少が喫緊の課題になっております。引取頭数の削減と併せて、捕獲抑留された犬の飼い主への返還や譲渡を進める必要があります。

また、屋外での猫による隣人トラブル、特定動物による咬傷事故等の問題も発生しており、これらの対策を進める必要があります。

【改正の主な内容】

（1）県の責務

県は、県民、動物を取り扱う者及び民間団体等との適切な連携に努めることを新たに規定しました。

（2）動物を取り扱う者の責務

動物を取り扱う者は、県が実施する動物の愛護及び管理に関する施策等に協力するよう努めることを新たに規定しました。

（3）猫の所有者の遵守事項

猫の所有者は、その所有する猫の健康と安全の保持及び周辺的生活環境の確保のため屋内飼養に努めることを新たに規定しました。

（4）災害に備えた対策

動物の所有者は、あらかじめ、地震等の災害時における動物の適正な飼養及び保管の備えに努めることを新たに規定しました。

（5）特定動物（政令で定められた危険な動物）が逸走した場合の対応

特定動物の所有者は、特定動物が逸走したときは県に通報しなければならないことを新たに規定しました。

（6）県が抑留した犬の生存機会の拡大

所有者への返還の機会を増やすため、既に条例で規定している抑留した犬の公示（公表）日数を2

日間から4日間に延長すること、併せて、返還の申し出がなかった犬の新たな飼い主への譲渡を推進することを新たに規定しました。

(7) 多頭飼養届出の対象動物に猫を追加

犬の多頭飼養届出制の対象動物に猫を追加することを新たに規定しました。猫または犬猫合わせて10頭以上飼養している場合には県への届出が必要となり、届出者には不妊去勢手術勸奨や適正飼養等の助言、指導を行うことで、猫の適正飼養を推進します。

【条例の施行日】

上記(1)、(2)、(6)は平成25年12月19日、(3)、(4)、(5)は平成26年4月1日に施行し、(7)は平成26年7月1日に施行いたします。

県といたしましては、昨年の動物愛護管理法の改正と併せて、今回の県条例改正の内容について、県獣医師会をはじめ関係団体及び市町村にもご協力いただきながら、周知を行うことで、飼い主の適正飼養が進むものと考えます。

会員の諸先生方のご指導、ご鞭撻を賜りながら、本県の動物愛護施策を推進してまいりますので、引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

こぼればなし

「使い捨ての乗り物」

全ての生物の生きざまは、「生命活動設計図(=DNA)の単なる運び屋」に過ぎない…という見方もある。我々生き物はDNAというただの物質が、己の「コピーを増やしたい」という下心に支配され、苦勞してこの世で生命活動を余儀なくされている。縄張り争いや戦争までしても、何が何でも命を繋ごうとする。虫でも雑草でも人でも生命の鎖が切れぬよう奉仕させられている。幸い生き残り、DNAという物質の鎖が途切れることなく、次世代にそのコピー伝達が完了して不要になれば、「おさらば…」と簡単に使い捨てにされる。夫婦で駕籠(かご)をかつがされ、客(子供=DNA)が一人前になるまで走り続け、子が次の駕籠昇き(かごかき)に成長した頃、用がすめば捨てられる。

生命がこの世に誕生して以来、DNAはその身を永続するために、あらゆる方法(進化等)を使って、己の鎖が切れることがないように、生き物を奴隷のように駆使してきた。考えてみれば、人生とは、そういう身勝手な「主」の奴隷のようなもの。これを讚えるか、アホらしいと考えるかは、各自の自由。人生をいかに美化しても、利己的に生き抜こうとするDNAの深慮遠謀から人は永遠に逃れる事はできそうにない。その証拠は毎年8500万人ずつ増え続ける世界人口。絶えることのない戦争。全ての生物はDNAの激情に翻弄され、増殖に歯止めが利かない。人類に「智慧」というものがあるのなら、DNAの奴隷を脱却し、生命の運び屋だけではなく、人間らしく、しっかり未来を見つめる眼を持ちたいものである。(S・S)

動物衛生研究所と獣医師の役割

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
動物衛生研究所 佐藤真澄

動物衛生研究所は、農林水産省家畜衛生試験場を前身とする家畜疾病に関する専門研究機関である。昭和53年、筑波研究学園都市の建設により東京都小平市から現在のつくば市に移転した。平成13年には政府機関の組織見直しにより独立行政法人となり、現在は約100名の研究職員(約9割が獣医師)が一貫して、動物の疾病について基礎研究から診断・治療および予防にいたる研究・開発を行っている。研究は大課題「家畜重要疾病・人獣共通感染症等の防除のための技術の開発」の下で、12のテーマ(中課題)に従って実施している。研究組織は、それぞれの専門分野あるいは研究対象ごとに整理しており、つくばにあるウイルス・疫学、細菌・寄生虫、病態の各研究領域、インフルエンザ・プリオン病研究センターの他、主に乳房炎を研究テーマとしている寒地酪農衛生研究領域(北海道支所：札幌市)、牛の異常産を引き起こす節足動物媒介性ウイルス(アルボウイルス)に関する研究を行っている温暖地疾病研究領域(九州支所：鹿児島市)、口蹄疫等の海外病の診断・研究を行っている国際重要伝染病研究領域(小平市)から成る。

研究・開発業務と同時に実施する主な業務として、国のレファレンスセンターとしての診断(口蹄疫や鳥インフルエンザ、BSE等の特定疾病についての確定診断や病原体の血清型や遺伝子配列といった詳細な検索)、動物用生物学的製剤(牛疫予防薬、炭疽やブルセラ病等の診断液等、一般の民間製薬会社では製造されない予防・診断薬)の製造と配布を行っている。また、農水省の依頼を受け、都道府県獣医師(家畜防疫員)に対して家畜疾病や病性鑑定に関する研修や講習も行っている。このように、動物衛生研究所はわが国の動物衛生行政を技術的に支える上で重要な社会的責務を負っており、これを担う唯一の独法研究機関である。また、海外研究機関との共同研究、国際獣疫事務局(OIE)等の国際機関への協力、技術協力を通じた国際貢献も行っている。平成22年には、「アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物用医薬品評価」の責務を担う機関として、農水省動物医薬品検査所と共同でOIEコラボレーティングセンターに認定された。

海外旅行が容易になり、畜産物の輸出入も頻繁に行われるようになってきたことから、最近では、従来わが国には存在せず「海外病」とされてきた口蹄疫や鳥インフルエンザ等の疾病侵入の危機がますます増大している。このような状況下で、動物衛生研究所も必死に努力を続けているところであるが、家畜疾病の防除のためには、国や都道府県が一丸となる必要がある。



特に農場におけるバイオセキュリティは大変重要で、これらの基礎ともいうべき飼養衛生管理基準順守の指導を行うためには一段と多くの家畜防疫員（獣医師）が必要である。また、最近頻繁に話題に上るようになってきたOne healthの一端を担う公衆衛生分野や環境分野にも多くの獣医師が必要である。1984年に獣医学6年教育の1回生が卒業してから30年、現在では現職のほとんどが6年制の獣医学教育を受けてきた獣医師である。獣医師の処遇改善については6年制移行の当初から叫ばれてきたが、30年経つ現在も全く改善される気配がない。需要に応じて多くの獣医師を確保するためには、やはり獣医師の処遇改善が必須であり、それを推進するために獣医師会の役割は非常に大きいと考えている。

こぼればなし

新芽を踏みつぶすな

4月1日、理研のSTAP論文調査委員会は、「捏造・改ざん」などの言葉であふれていた。肝心のSTAP細胞が存在するかどうかではなく、枝葉の画像や引用文献に固執し強烈な打撃を加えていた。そもそもは発表論文の共著者がまず文句をつけた。スタッフの一員ならば、なぜ最初から十分に精査しなかったのか。理研の副所長もその一員であるから、なぜ組織として完璧を期さなかったのか。文科相も「調査は不十分」と言っている。最終的にどう結論されるか分からないが、特に若い人の新発見などは、先輩や組織が十分、カヴァーして、盛り立ててやるべきである。再生医療につながる先端技術などには、大きな研究費が付く。それゆえ、科学者間にも、ドロドロした思惑があるように見える。科学技術立国を目指す日本は、アカデミズムのあり方を基礎から再検討する必要があるようだ。1983年に20年以上も前の業績でノーベル賞（生・医）を得たマクリントック女史は、マスコミの質問に『ノーベル賞をもらうコツは、長生きすることです』と答えたという。小保方さんも発表に確信を持っているなら、誰もが再現実験できるまで、がんばれ！

ダーウィンが進化論を発表した時も随分苛められ、現在もアメリカの一部では、進化論を教えた教師は、神が人体を創造したとするキリスト教原理主義者などにより、襲撃されたりしている。かつて、若手の古人類学者などがアフリカで太古の人類化石を発掘し報告すると、英国の権威ある学会は、アフリカのあんな野蛮な地帯で人類のような高等生物が進化する訳がない…と一斉に反論し罵倒した。若手学者は日の目を見ず、生涯を閉じた人もいるという。後にその発見が基で古人類学は大きく進展した。権力者は自分の地位を脅かす新進気鋭を力ずくで踏みつぶす例は多数見られる。

(S・S)

臨床獣医師部会 産業動物分科会報告

本分科会の活動は、生産者と一堂に会しての研修会をここ数年開催してきました。前年度は、日本大学の津曲茂久教授を講師に招き、「子牛の下痢症」について生産者と共に研修をしました。

低迷する昨今の畜産情勢下、子牛の損耗が重要課題となっています。乳牛のメス子牛は後継牛として大切に育成されます。オス子牛は酪農家唯一の現金収入源となります。繁殖和牛農家ではオス、メスを問わず10か月育てて市場でセリにかけられ換金されます。乳牛では万一子牛を亡くしても牛乳が残ります。しかし、和牛では子牛を亡くすと換金のすべをなくすことになります。

このような観点から、損耗の多い子牛の下痢について再認識を持つことにしました。お陰様で40余名の参加を頂き盛会の内に終了しました。

また、TPPに関する書籍、講演等でご活躍の東京大学教授、鈴木宣弘先生に「どうなる！？TPP問題」をテーマにご講演をいただきました。会員の他、農業団体、消費者団体の方々の参加も頂き、役場のバスで来場の方たちを含め100名を超える盛況でした。

今年度は会員の手で実施する研修会を試みました。ひので酪農業協同組合勤務の会員、小山健二先生と県央南農業共済組合勤務の会員、渡辺彰俊先生を講師に「乳牛の繁殖に関わるエコー診断」をテーマに座学と実習の2部構成で研修をしました。茨城県畜産センターを会場とし、発情待機牛1頭と、繁殖障害牛2頭を拝借しての実習となりました。和気藹々と昼食をとり、正味3時間ほどの短い時間ではありましたが、参加会員の積極的な協力の下、有意義な研修会を開催することが出来ました。

また、養豚に於きましては鹿行畜産振興協議会の依頼により、協同農産株式会社、家畜診療所勤務の会員、射村錦司先生が「動物医薬品の使用状況について(動物用医薬品の適正使用にむけて)」をテーマに繁殖、ワクチネーション、経営管理等について、事例紹介と共に講演されました。

今後も機会を見て、会員の協力を頂きながら自前の研修会を開催し、会員相互の親睦を深めて行く所存でおります。

平成25年度県北ブロック獣医師連絡部会活動報告

～どうぶつフェスティバルinかみね～

★写生会

日 時：平成25年10月6日(日)

場 所：かみね動物園(日立市)

開催時間：AM9:00～14:00 受付締切AM11:30 作品締切PM1:30

参加対象者：4歳以上の幼児から小学生まで

募集人数：事前登録120名

募集病院：10月5日(土)まで、定員で締切

北茨城アニマルクリニック

メルシー犬猫病院

日立動物病院

おおみか動物病院

カレンアニマルクリニック

長谷川動物クリニック

ひまわり動物病院

マックペットクリニック

- 申請項目：参加者名（ふりがな）・年齢・保護者名・住所・電話番号
・事前登録には、特典として、動物園内フードコートでの飲み物券をプレゼント
・優秀賞・副賞あり！！

★マイクロチップラリー

趣 旨：クイズを通して、マイクロチップは何かを知ってもらう。

場 所：クイズ回答掲示場所（カワウソ・チンパンジー・キリン）

時 間：10：00～

★動物飼育相談

犬猫の飼育相談

平成25年度鹿行ブロック獣医師連絡部会報告

- | | | |
|-------|-------------|--|
| 4月7日 | 定期総会 | 大洗シーサイドホテル |
| 11月3日 | ペット動物無料健康相談 | 行方市麻生中学校グラウンド 第7回なめがたあきんどまつりにて
里親探し・しつけ教室・無料健康相談・マイクロチップの装着
今年度も、ふれあい動物園を行なった。 |
| 3月9日 | 小動物講演会 | 鹿島ハイスポーツプラザ
骨髄検査と尿検査 アイデックスラボラトリーズ 平田 雅彦 先生 |

平成25年度県南ブロック獣医師連絡部会報告

県南ブロック獣医師連絡部会は、県南地区第5支部から第8支部まで会員数は101名（平成25年3月時点）となっております。平成25年度は、7月4日につくばのホテルグランド東雲にて定期総会と第1回研修会を、10月6日に第2回目の研修会を行いました。研修会は、日本獣医生命科学大学名誉教授の織間博光先生をお招きし、ご講演いただきました。第1回目が『症例で見る神経疾患の検査・診断法』と題し、てんかんをはじめとする神経疾患についてご教授いただき、第2回目は『知っておきたい正常像・異常像』と題してレントゲン読影についてのお話をいただきました。ともに、多くのことを学べ、非常に有意義なものとなったと思います。

また、動物フェスティバルは、第7支部担当で、10月20日につくば市竹園の大清水公園にて行われました。第7支部の先生方に大変ご苦労いただきました。ただ、大変な大雨の中で、会場はあたかも水田の中のよう水浸し状態になってしまうという天候が非常に残念でありました。

平成25年度県西ブロック獣医師連絡部会報告

平成25年7月17日、下妻市に於いて、伊藤彰仁先生による「ダニによって媒介されるヒトの感染症について」研修講演会、及び、情報交換会の開催。

平成25年11月10日、常総市（旧石下町）常総ふるさとまつりに於いて、動物愛護フェスティバルin常

総を開催、ペットしつけ方教室ならびにペット無料健康相談の実施。

平成26年3月12日、下妻市に於いて、杉田茂夫先生による「ヒトと動物のインフルエンザの最新情報について」研修講演会を開催。

支部活動報告

第1支部

正副支部長が県獣医師会と取り交わすべく誓約書の件で混乱を招き、支部活動が一時停滞した第一支部の運営であったが、苦渋の選択の中から会員各々が方向性を見出し、邁進をはじめた昨今である。

8月1日、正副支部長が不在となった中、県獣執行部の招集により緊急会議が開催され、暫定ではあったが支部長が承認された。

8月21日、役員会を開催し、役員会、狂犬病予防推進部会及び狂犬病地区担当等の構成メンバーの素案を作成した。これをもって翌8月22日、第1支部緊急臨時総会を招集し、支部長、副支部長をはじめとする役員及び担当者が決定した。支部構成は役員会、狂犬病予防推進部会、狂犬病地区担当、県北ブロックフェスティバル担当の4部門とした。役員会は正副支部長、会計、書記、幹事、監事、理事で構成し17名の役員であったが、14名に改定した。狂犬病予防推進部会についても、正副部長、会計、監事の7名で構成されていたが、6名に改定した。支部内には3市3町があるが、行政とのパイプ役を担う狂犬病地区担当を10名の会員にお願いした。また、ブロックの事業に対する支部を挙げての参加、協力の体制として、県北ブロックフェスティバル担当を2名の会員にお願いした。

以上のように支部環境も整い、県や獣医師会が主催したセミナーやイベント、昨年暮れに開催した忘年会、今年の狂犬病予防注射に関わる会議等にも積極的な参加が得られ懇親を深めることが出来、茨城県獣医師政治連盟にも多くの会員の加入協力が戴けた。

今後の予定として、講師を招き学術的な要素をもった臨床懇話会を開催し、更に会員の懇親を図るべく検討をしている。

第3支部

- ・役員会 平成25年5月13日
- ・役員会 10月24日(木)
- ・第三支部総会 12月8日(日) 日立テラスガーデン

第4支部

- 平成25年3月24日 支部役員会
- 4月7日 支部総会 大洗シーサイドホテル
- 9月8日～9日 関東地区三学会 渋川市 ホテル木暮
- 11月28日 正副支部長会議
- 平成26年2月20日 正副支部長会議
- 3月23日 支部役員会
- その他、ブロック事業への協力

第6支部

- 4月 支部通常総会開催、支部役員の交代、狂犬病集合注射
- 5月 狂犬病集合注射、役員会の開催
- 6・7月 支部役員の各会議への参加
- 10月 土浦市狂犬病集合注射開催時期に関する役員会議
- 11月 支部懇親会研修旅行（神戸方面）阪神淡路大震災跡などを見学し、東日本大震災も含め、これから起こりうるであろう地震災害時の対応についてディスカッションを行う。
また、一泊する事により、よりいっそうの親睦を深めることが出来た。
- 12月 土浦狂犬病集合注射開催時期に関する役員会議。
- 2月 支部新年会の開催、消費税改正に伴う狂犬病注射料金と注射開始時期に関して
- 3月 県総会、公益法人細則等に関する役員会など

第8支部

第8支部は、取手・守谷・つくばみらい市の3市にまたがる支部です。平成25年度は、役員改選により新役員となり、平成25年4月のつくばみらい市の集合注射から本格的な活動開始となりました。6/21には支部総会、9/20には狂犬病予防推進部会の支部会議を行いました。

また、学術的な勉強会も10/29のベトメディン錠、H26年2/19のパノラミス錠に絡め、製薬メーカーの学術担当講師の先生に来ていただいて行いました。積極的な質問・意見交換がありました。また、親睦を深めるための12/13の忘年会やH26年2/26～27の1泊2日での鬼怒川温泉への支部旅行も行われました。

第9支部

平成25年11月10日、県西地区動物愛護フェスティバル担当支部として、動物愛護フェスティバルin常総の企画開催。協力・後援いただいた関係各所にあらためてお礼申し上げます。

平成25年11月21日、狂犬病予防対策事業の一環として、動物検疫所成田支所および東京税関麻薬探知犬訓練センターの視察研修会を実施。

平成26年2月25日、支部情報交換会開催。

第10支部

- ・平成25年度支部総会
期 日：4月4日
場 所：境町「橘家」
- ・狂犬病予防事業推進協議会
期 日：6月20日
場 所：境町「橘家」
- ・役員引継ぎ会議
期 日：7月11日
場 所：古河市「Bar-Ista」

- ・支部納涼会
期 日：8月17日
場 所：境町「橘家」
- ・県西地区動物愛護フェスティバルの支援
期 日：11月10日
場 所：常総市「石下ふるさとまつり」
- ・狂犬病研修会
期 日：11月13日～14日
- ・支部忘年会
期 日：12月19日
場 所：境町「橘家」
- ・狂犬病集合注射（春・秋）

保健福祉部支部

保健福祉部支部では、公衆衛生の向上のため業績発表会（茨城県公衆衛生獣医師協議会）の開催をし、次のとおり支援しました（参加者73名）。また、獣医師職員が海外研修の一環として、動物愛護及び食の安全等について調査研究を行いました。

【公衆衛生獣医師協議会業績発表会】

- 1 日 時：平成25年6月1日（土）
- 2 場 所：茨城県水戸合同庁舎（水戸市柵町）
- 3 結 果：

発表演題13題のうち、演題6、7、10、12の4題を平成25年度関東・東京合同地区獣医師大会・三学会に、演題13を平成25年度関東公衆衛生獣医師協議会調査研究発表演題に推薦しました。

4 発表演題等：

- 1 関節炎型豚丹毒多発農場におけると畜検査合格豚の豚丹毒菌保有状況について
県南食肉衛生検査所 柳本 圭介
- 2 消化管内容物による豚枝肉汚染防止対策の概要について
県南食肉衛生検査所 沼尻 美紀
- 3 Iと畜場における牛肉の放射性物質検査
生活衛生課 小森 春樹
- 4 牛久市内の飲食店で発生したKudoa septempunctataを病因物質とする食中毒事例について
竜ヶ崎保健所 御給 一世
- 5 食鳥検査でみられた敗血症鶏の細菌学的検討について
県西食肉衛生検査所 埴 英子
- 6 管内と畜場搬入豚におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の保菌実態調査
県北食肉衛生検査所 佐藤 友美
- 7 殺鼠剤中毒が疑われた豚のLC/MS/MSを用いた検出事例
県西食肉衛生検査所 會田 雄治
- 8 と畜場が開催する定例会議を通じた衛生指導の成果について
県南食肉衛生検査所 沼尻 美紀
- 9 と畜場における衛生水準向上に係る強化指導
県西食肉衛生検査所 萩谷 和音

- | | | | |
|----|---|----------|-------|
| 10 | 夏休み親子見学会について | 動物指導センター | 佐藤 要介 |
| 11 | 動物指導センターにおける苦情相談対応事例について | 動物指導センター | 龍尾 幸治 |
| 12 | 茨城県において検出されたA群ロタウィルスの遺伝子型別結果 | 衛生研究所 | 本谷 匠 |
| 13 | 平成23年度に認定小規模食鳥処理場から分離されたCampylobacter jejuniの疫学解析 | 衛生研究所 | 和田 千里 |

【調査研究】

- 1 日 時：平成25年10月30日から11月8日まで
 - 2 研修先：シンガポール及びオーストラリア
 - 3 研究内容：
 - 「動物愛護・保護活動の取り組みについて」
 - 「オーストラリアの食の安全性確保に対する取り組みについて」
- 生活衛生課 海老原 恵司

勤務退職者支部

事業概要

1 代議員等会議の開催

- ① 平成25年5月2日 笠間市
 - ・平成24年度事業報告・収支決算について
 - ・平成25年度事業計画案・収支予算案について
 - ・獣医師会役員等の候補者選任について
 - ・研修会のテーマ・講師等について
- ② 平成26年1月31日 水戸市
 - 研修会日程役割分担、事業運営等について

2 研修会の開催

平成26年2月25日 水戸市

講師：日本ハム（株）中央研究所 所長 森松 文毅 氏

演題：「食物アレルギー対応食品の開発と管理技術」

食べ物が原因となって身体に障害を引き起こす反応に「食物アレルギー」があります。表示が義務化あるいは推奨される特定原材料に牛乳・鶏卵・牛肉・豚肉・鶏肉と獣医療に係わる食品が多いことから、アレルギーの機序、対策さらにアレルギー対応食品開発の最新情報の講演をいただき、参加者と意見交換をいたしました。

終了後、参加者の個別相談を実施いたしました。

3 福利厚生事業 親睦ゴルフ大会の開催

会員相互の親睦を図るため開催

平成25年8月27日 笠間カントリークラブ

4 各種学会・大会等の開催案内・報告等

5 事業活動会員報告

菊池様ご家族の愛犬バディちゃん（ゴールデンラブラドル）との触れ合いについて書いたお子様もえちゃんの作文です。

第3支部 宇佐美 晃

もしもまほうがつかえたら

きくち も え

もしも、まほうがつかえたら、一つだけかなえたいことがあります。

わたしのいえには、バディというなまえのいぬがいます。二さいのおとこのこです。はじめてあったときは、ぬいぐるみのようにちいさくて、わたしがだっこしてあげられたのに、あっというまにおおきくなって、わたしがのれるくらいになりました。きんいろのふさふさしたけで、いえのなかをのっしのっしとあるくので、ライオンみたいです。

わたしががっこうに行くとき、バディはげんかんまでついてきます。

「いってらっしゃい」といっているのかなとおもいます。

わたしがいないと、バディはかならずとなりにきてよりかかってくる。わたしは、

「あっちへ行ってえ。」
とって、おしのけてしまいます。きつとなくさめてくれているのに。

「いじわるいってごめんね。バディがじつとわたしのかおをみるから、はずかしくなってしまうんだよ。」

バディのからだはおおきいのに、おおきなおとがすると、こわくてじぶんのハウスにかえってしまうし、ぜんぜんほえなくて、ねてばかり。みんなは、ばんけんにならないねとわらうけど、わたしは、やさしいバディがだいすきです。

バディがしゅじゅつでにゅういんしたとき、わたしはあいたくて、なみだがでそうになりました。バディだってきっと、

「さみしいよ。いたいよ。」
といたかっただろうとおもいます。バディもにんげんのことばがはなせるといのに。

もしもまほうがつかえたら、バディがはなせるようにしたいです。そうすれば、いたいときもさみしいときもうれしいときも、ちゃんといえるから。おはなしたくさんしたいな。

平成25年6月5日の取手市立戸頭東小学校での動物ふれあい教室に参加して

第8支部 後藤 貴司
千 装 勉

以前参加した動物ふれあい教室とはだいぶ趣の異なるものであったが、感じることも多くぜひご紹介しておきたい部分があると思ひ拙い文章力ではあるがここに書き留めさせていただくこととした。

参加したのは、小学2年生の2クラス、合計55名の組であった。

動物ふれあい教室への参加は前述の通り初めてではない。前回は十年以上前になる。その時には、学校飼育動物のニワトリに関して、飼養の指導をしたり、子供たちの疑問に答えたりという形であった。だが、今回は動物指導センターの職員の方に連れてきていただいた子犬たちと触れ合いを持ちながら、指導センターの先生主導で進めるものだった。子犬の心音と自分たちの心音を比べ聴き、同じように生きているものだと感じ、実際に触れ、体温を感じることで親しみを感じ、可愛いと思うことを体験していく。紙芝居実演もあり、責任をもって飼育することについても子供たちは聞いた。指導センターの先生方は、子供たちの興味を上手く引き寄せ、子供たちは飽きることなく、皆、集中して聞いていた。



『「じゅういさん」がくる』という話は生徒たちは以前から知らされていて、とても楽しみにしていた様子だった。授業中も積極的に参加してくれて、とても時間が足りないという位の勢いであっ

た。とても素直な子供たちにこちらもとても良い刺激をもらった。そして、きっとここで聞いた話を、学んだことを家庭に持ち帰って、家族に話すだろうと思った。

この年代の子供たちは、純粹に学校で学ぶことを受け入れてくれる。親の話すことは聞かなくても、学校で聞いてきたことは守る。この年代の子供を持つ親としてとてもよくそう思う。学校の先生の言うことは聞くもんなあと。

終生飼養やマナーを守った飼育のことだけでなく、狂犬病予防注射の目的・必要性なども学校で話をしていく機会ができるなら、その効果はとても大きなものとなるのではないだろうか。

子供が家に帰ってきて、「うちの犬、狂犬病の注射してる？」って聞かれたらしないわけいかないでしょ？「しなきゃいけないだよ！」攻撃が待っているだろうから。

こういう機会を積極的に増やしていくべきと感じた。

余談と言っているのか、話の大事な核心なのか、実は偶然（参加獣医師として手を挙げる時点では学校名までしか知らなかった）、自分の息子が、この学校、この学年、このクラスの中にいた。だからこそ、その効果について強く感じた。親より学校だよと。



国旗日の丸と日本の祝祭日について思う

勤務退職者支部 諏訪 綱雄

1. 日の丸

祝日には、玄関先に国旗の日の丸を掲げる事が子供の頃自分の役目とされていた。国旗の日の丸は、二本繋ぎの黒の段々模様をついた竹竿の先に金色に輝くガラス玉を付け、その下に日の丸の旗を括り付けて玄関先の片側に各戸毎に立てる習わしだった。もう何十年にもなる前の戦前の話である。戦争に負けてからは、祝祭日でも各戸における国旗の掲揚は全く見られなくなった。

県庁に勤めていた頃、農水省の要請で南米の家畜衛生事情を視察するため、南米のアルゼンチンの牧場を視察訪問した時に、その農場主の計らいで農場の入り口に自国のアルゼンチンの国旗と日本の国旗日の丸を高々に掲げてくれた。



アルゼンチン国旗

日本から遥かに遠い他国で受けたこの暖かい歓迎に感動し、この日の丸を目にした時、一瞬目頭の熱くなる思いをしたことが思い出した。そして、お互いに各々の自国語でタンゴのベサメムーチョを大合唱して懇親を一層深めたことがあった。

最近、日の丸を街中で見る機会が一段と少なくなった。見たのは何時だったろうか。たぶんテレビのスポーツ番組の中で日本選手の活躍したときだったかもしれない。

テレビのニュースで中国や韓国の抗日運動のデモで中国人、韓国人が日本の国旗を踏みにじり、引きちぎり火をつけるなどの暴挙の様子をまざまざと見せられた時だった。なんとも嘆かわしい出

来事だった。この現状を見て激しい怒りを感じたのは、自分一人だけだったろうか。日本人なら誰しもが感じたことであろう。

これらの国には、外国国旗損壊に関する何らかの法律はないのだろうか。我が国には、「外国国旗損壊罪」があって、若しそのようなことがあれば、法的な処置がとられることがある、という。

注) 外国国旗損壊罪

外国に対し、侮辱を加える目的で、その国の国旗その他の国章を損壊除去、汚損する罪（刑法92）、外国政府の請求をもって論ずる。懲役2年以下または罰金20万以下

2. 祝祭日を考える

五月のゴールデンウィークは、祝祭日の連続でサラリーマンにとって家族サービスのための掛け替えの無いものになっている。祝日が単なる休日としか思っていないようでもある。何のための祝日か意識しないで過ごす人が多い。もう少し自覚をもって祝祭日の意義を、考えることも必要ではなかろうか。

最近では、この連休の扱いをめぐる、いろいろと議論されている。中には、この連休を分割して東日本と西日本とで交互にするべきだと言う、とんでもない意見もあるそうだ。祝祭日の意義を全く無視した考え方である。もう一度本来の祝祭日と休日の意義を真剣に考えるべきである。一年間に十五回もある日本の祝祭日と国民の休日には、それぞれに大きな意義を持っていることを忘れてはならないと思う。

進化の代償

勤務退職者支部 菅原茂美

本会報第80号の編集後記で、最近感動を受けた本として「病の起原」を紹介した。お読みになられた方もおられるかもしれないが、私なりに、この著書から受けた感動を、そのデータなど一部拝借し、日頃考えていることを述べたい。

*

生存に有利なように遺伝子変換を起こす事を「進化」というのなら、それに「代償」が付きまとうとは何事ぞ?…と誰でも思うが、残念ながら進化には多数のリスクが付きまとう。

例えば、人類は700万年前、チンパンジーとの共通祖先から独立し、直立二足歩行を始め、大きく進化を遂げた。しかし、そのために、かえって、腰椎に上半身の負重がかかり、「椎間板ヘルニア」が起り、「腰痛」などを呼び込んでしまった。こうしてみると、「進化」とは単なる「変化」程度に受け止めた方が良さそうである。

これまでの医学は、病はどのようにして(HOW)起こるか…に重点を置いて検討されてきたが、近年のダーウィン医学(進化医学)は、なぜ(WHY)この病が起きたのか?…に視点を変え、新たな目で見たいこうとするものである。特に、生存に有利に働くべきはずの進化が、かえって不利益に働くことがある…という現実をしっかりと観つめて、その対応を考えていこうとするものである。

「進化」は、生存に有利に働く器官や機能が自然選択され、新たな「種」に分化して、発展していくものとは限らない。生存に不利益なものも背負わされて新しい種に定着していく事もある。こんなことは特に珍しい事ではなく、自然界でしばしば見られる現象である。

例えば、「オオツノシカ」は1万年ぐらい前までヨーロッパに広く分布した大型の鹿である。体長

3尺、体重500kg、雄の角は50kgもあり、その幅3.5尺。角は巨大化し始めると静止が利かず、雌の争奪戦には有利であったかも知れないが、角が大きすぎて、木の枝に引っかかり、身動きできず、そのまま餓死したりする例もあった。

これと同じような事が人類についても多数見受けられる。例えば脳の巨大化に血管構造が付いていけず、「脳卒中」(=脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)を引き起こす。地球の引力に逆らって直立二足歩行を始めた「代償」として、膝関節痛・胃下垂・鼠径ヘルニアなど数えきれないほどのリスクを負う事となった。

しかし、よく調べてみると、直立二足歩行した事が必ずしも「腰痛」に直結するものでもないらしい。タンザニアのハッザ族は、今でも狩猟採集の生活をしており、GPS装置を付けて、彼等の1日の行動距離を調べると、平均28kmも走り廻っているが、誰一人腰痛を訴える者はいないという。一方カナダのアルバータ大学の調査によると、元陸上長距離選手24人の椎間板をMRI検査したところ、いずれも正常で腰痛を訴える者はいなかった。という事は、腰痛は直立二足歩行の宿命の結果とは云えなさそうだ。腰痛を引き起こす原因は他にあり、それは人類が1万3千年前、メソポタミアで、それまでの狩猟採集生活から、定着して農耕牧畜へと生活のスタイルを変換した。そのため前かがみで重い物を持ち上げたり、長時間、前かがみの作業が多くなった。そのため、椎間板に損傷をきたしたと想定されるとの事。事実、シリアのユーフラテス川に沿ったアブ・フレイラ遺跡に、当時の人骨が埋葬されており、すでに椎間板ヘルニアは存在していた事が立証された。要するに現代人は、草取りや、前かがみで重い物を持ち

上げたり、パソコンで長時間、前かがみの作業をするために椎間板が変形し、腰痛のリスクを背負う事になったとする見解が多いようである。人類が作り出した文明が、生活のスタイルを歪な状態に追いやり、多くの病を背負う羽目になったというのが、真相のようである。

①「睡眠時無呼吸症」

人は1日に2万回以上呼吸をする。睡眠中、意識がなくても自動的に呼吸を続ける。ところが日本では、中高年男性を中心に、睡眠中10秒以上呼吸停止、或いは1時間に5回以上又は一夜7時間の睡眠中に30回以上の睡眠中呼吸停止をする人が、ほぼ500万人以上いるという。このため、昼間は睡魔に襲われ、会議中コックリを繰り返す、怠慢・無気力等の誹りを受けたりする。最近もこの病気を持つ運転士が、長距離高速バスを居眠り運転し、大きな事故を何度も繰り返している。

このような状態が進むと、「心筋梗塞」や「脳卒中」を引き起こす恐れが極めて高くなる。その理由は、体が酸欠状態になると、心臓はそれを補おうとして心拍数が上がり、ついにはその負担に耐えられなくなり、「不整脈」の原因である「心房細動」を起こす。すると血液がスムーズに流れなくなり、「血栓」を生じ、心臓の冠動脈が詰まれば、心筋梗塞、脳の血管が詰まれば脳梗塞となる。ほとんど正常に見える人も、脳の毛細血管がつまり微小な脳梗塞は無数に存在するという。そういう事が「まだらぼけ」となって、普段は正常そうに見えても、物忘れ等の原因となっているのではないかと推測される。高齢者の脳のMRI画像を見ると、正常そうな人でも、脳細胞はかなり死滅・委縮しているとのこと。

では人類は進化の過程で、なぜこんな「病」をしょいこんでしまったのか？

アフリカのエチオピアで発見された人骨化石には、我々ホモ・サピエンスの生みの親であるホモ・

エレクトスの前の原人である250万年前のアウストラロピテクス・ガルヒに、その明確な証拠が残されている。そのガルヒが埋まっていた同じ地層から、「石器」や動物の骨も発見された。このような石器や解体された動物の骨の傷痕は、それ以前の地層からは発見されていない。石器により割られた長骨から骨髓を取り出し、又、肉など柔らかいものを食べるようになると、栄養は豊かになり、大脳容積は急に増加する。ホモ・エレクトスは、確実に「火」を使っており、肉や植物を柔らかくして食べ、急速に大脳容積を増している。

人類の大脳容積の増加は、時間とともに並行して増えていったものではない。人類の歴史700万年の初期の250万年は、チンパンジーの共通祖先から枝分かれした当時と、ほとんど変わらない。石器の発明と「火」を常用するようになると、急速に大脳容積は増加する。

さて、食べるものが柔らかくなると、「咬筋」が少なくて済む。堅い草の根などを食べていた時代の人骨の頭頂部には「矢状稜」という下顎から延びてきた咬筋が付着する骨の突起があった。原人の前の「猿人(450万年前のアルディピテクス・ラミダス)」の頭頂部には、しっかり矢状稜が存在した。これが頭頂部の骨をガッチリ固め、脳容積が拡大する余地はなかった。事実700万年前、人類が直立二足歩行を初めて原人に発展するまでの、ほぼ250万年間の猿人時代に、脳容積は、チンパンジーに比べ50ccしか増えていない。

堅いものを咬まなくて済むようになると自然と矢状稜は消え、頭頂部の骨は薄く柔らかくなり、益々脳容積は楽に膨らむことができ、急速にその容量を増していった。要するに栄養のある軟らかな食べ物が主体となると、顎の骨は小さくなり、大脳が発達すると、ますます栄養のある軟らかな食べ物を多く摂取するようになる。こうして人類は口腔容積を減らし進化をとげていった。

さて、人類は急速に「顎」の骨が小さくなり、口

腔容積が小さくなっても、「言語」が発達し、歌などを歌うようになると、「舌」はますます発達して大きくなり、狭くなった口腔容積の大半を占めるようになった。すると横になっての睡眠中は、大きな舌が狭い気道を塞ぐようになり、いびきや無呼吸が起きやすくなる。人類の歯列の最後の親知らず歯は、生えない人もあり、退化傾向にある。この歯がなくなると、ますます口腔容積は縮小し、睡眠時無呼吸症が起りやすくなる。

「青い山脈」の「山桜女史」は、「鼻」(花)より「歯」(葉)が先に出ている。これなら、睡眠時無呼吸症は起らない…。出っ歯万歳！

要するに知能が発達し、柔らかいものを食べるようになると、口腔を囲む骨が小さくなり、顔面が縮小し、逆に舌は大きくなって、気道を塞ぎ、睡眠中呼吸が、やりずらくなった…というわけ。口腔骨格の縮小と大脳の大化は、睡眠時無呼吸症という代償を負う事となった。

さてその「対策」であるが、近代医学では、バネのついた特殊な器具を口の中にはめて、口腔の「拡大治療」法が行われているようだ。

②なぜ人類に「がん」が多いか？

チンパンジーと人類のDNAの差はわずか1%そこそこ。しかし、チンパンジーのがん発生率は2%弱。これに対し人類は30%といわれる。昔は結核病が国民病と言われたが、今は正に「がん」が国民病である。二人に一人はがんにかかり、三人に一人はがんで死亡している。

そもそも「がん」はいつ頃からあったのか？

ポルトガルの研究チームがエジプトの2300年前のミイラのCT写真を分析したところ、前立腺がんが、骨盤や脊椎骨に転移したものであると推測された。またその頃、パピルスには乳がんやカポジ肉腫に関する記述も残っているという。動物でもなんと1億5千万年前の竜脚類ディプロドクス(35〜40ト)にもがんの痕跡が見られるという。

がんは決して新しい病気ではなさそうだ。

地球に生命が誕生して40億年。そのうち30億年は単細胞時代である(その遺骸が石油になった)。生物はほぼ10億年前、単細胞のクローン増殖のみでは、環境の変化についていけず、「多細胞生物」へと進化を遂げ、生き残りを図った。その多細胞への進化こそが、がんを呼び込む起源となった。単細胞生物に、がんはあり得ない。

人体は60兆個の細胞からなり、毎日3000億個の細胞が入れ替わり、死滅・再生を繰り返して生命を維持している。

問題は再生される3000億個の細胞のうち、毎日40個ほどの割合で遺伝子のコピーミスが起こることだ。ミスは、DNAの配列が間違っただけでコピーされることにより起こる。通常コピーミスを起こした細胞は免疫機構により排除されるが、それを潜り抜け、とめどもなく分裂を繰り返すのが「がん細胞」である。これこそ正に多細胞生物へと進化した「宿命の病」である。

更に、個体は長い年月を生き抜けば、それだけDNAは、放射能や毒性の化学物質、或いは活性酸素や有害紫外線などに触れる機会が多くなるので、遺伝子は傷がつきやすい。ある年齢以上になって、生殖細胞の遺伝子に傷が付き、尚も生殖活動を続ければ、子孫にその傷がストレートに遺伝していく(それを防ぐため、わざわざ閉経や、インポが機能し、子孫を残さないよう、神様がしっかり仕組んでいる。それなのに「老いてますます盛ん」等の例は、神に対する冒瀆?…)

生物体を構成する細胞数は、分裂増殖を推進する遺伝子(アクセル役)と、それを抑制する(ブレーキ役)の両遺伝子のコントロールにより、一定の数が維持されている。その抑制が効かなくなり、他の組織にまで転移して増殖を続けるのが「がん」である。一方増殖のスピードが鈍く、他に転移もせず、生命を脅かす危険性のないのが「良性肉腫」である。

なぜ人類にこんなにも「がん」が多いのか？

それは、人類は他の動物に比べ、セックスの回数が多すぎる。回数が多いということは、精巣で、細胞分裂の回数が多いということ。がんはこの造精機能の一部を、無限に増殖する「がん」のシステムに取り入れた。

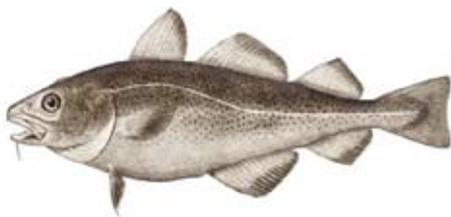
そもそも、直立2足歩行するようになると、前足2本は手となり、自由になる。即ち、物を持ち運びしやすくなる。特に雄は、体力もあり、敏捷性もあり、もっぱら「狩り」に出るようになり、収穫があれば、群れの中のメスや子供のためにより多くの餌を持ち帰ろうとする。当然雄の能力に応じて持ち帰る量は異なる。自然と多くを持ち帰った雄は、成熟したメスの「オメガネ」にかなう。交尾を要求すれば、オメガネにかなったオスは優先的に受け入れられるであろう。こうして狩の上手なオスほど多くの子孫を残す事になる。メスは優れた雄が他に逃げないように、いつでも「受け入れOK」の態勢に進化し、他の動物には見られない妊娠中でさえも雄を受け入れる形に進化していった。という事は、オスは他の動物の一定期間だけ交尾が許される形態と異なり、いつでも無制限に

交尾が可能になった。チンパンジーと人類の遺伝子に大きな差がないにもかかわらず、精子造生に関しては、人類のメスが常時雄を受け入れる事から、オスにおいて精子を常時生産する体制が整備された。即ち生殖細胞分裂が、フル回転するように進化していった。その造精機能を、がん細胞はチャッカリ借用している。多細胞生物は常に細胞数を一定に保とうとするが、余計に増えた細胞は、アポトーシスと言い、自殺命令を受けて、死ぬように設計されている。ところが人類の精子細胞には、アポトーシス命令を拒否するシステムが存在する。チンパンジーにはそれが無い。人類のオスはメスがいつでも受け入れOKとなると、1時間に1千万個も精子を生産する異常能力を獲得した。ところが、がん細胞は、精子細胞が自殺命令拒否を活用し、無制限増殖するシステムをチャッカリ借用して、今日に至った。

そして精子を多く生産しても、それが確実に子宮に届かなければ意味がない。その役目を果たするのが「前立腺」である。前立腺液は精子に活力を与え、精液の増量剤として射精時の快感の源でもある。その前立腺が男性ホルモンの強い支配下にあ

動物名のルーツを探る (シリーズ25 タラ)

タラ (鱈)



タラの語源について『広大和本草』では、タラは大口の魚で冬季の雪のよく降る頃に取りれることと、その身肉の白いことから魚偏に雪の字を付して鱈とし、日本で作られた字とされている。

また、タラの皮模様が斑のことから真鱈とされたとか、大食であるため、たらふくから来ている、と言う説もある。

鱈の一種にスケトウダラがあるが、このスケは鮭のスケから名づけたものとされている。更にこのスケトウ鱈は、多く佐渡の近海で取れたことから佐渡(すけと)の名になったとされている。因みに、朝鮮では、スケトウダラのことを明太魚(ミンタア)と言う。明太子はこのミンタアによるものと思われる。

英名コド Cod 仏名 モリユール morue

獨名 シェルフィッシュ Schellfisch

り、前立腺に起きたがん細胞は、特に男性ホルモンの刺激で激しく増殖する。一般の動物では、男性ホルモンの分泌は一定時期に活発化するが、人類は1年中いつでも男性ホルモンが大量に分泌され、もし前立腺にがんが発生すれば、それを増大させる事となる。それゆえ直立二足歩行が、前立腺癌の遠因とも言われる。野生動物に前立腺がんは、ほとんどない。

* * *

さて「進化」とは大変カッコよく聞こえる。直立二足歩行という大進化を遂げたのは良いが、実は、その裏で、多くの要らざることまで背負い込み、今なお、そのために人類は、「椎間板ヘルニア」など、腰痛と闘いながら、生きている。

進化の大展開により、人類は偉大な文明を築き、今日の繁栄をもたらした。しかし、進化は、決して合目的的に進展するものではなく、単なる偶然の積み重ねで「良き事も、悪しき事も、併せ同時進行するもの」であると、近年理解されるようになってきた。ダーウィン医学はそのような、進化に伴うところの医学を研究する学問である。

*・人類は700万年前、直立2足歩行に踏み切って以来、猿人→原人→旧人→新人と、多段のバージョンアップを重ね、今日に至った。現在地球上のすべての人類は「新人」であり、ホモ・サピエンスただ1種のみである。「種」にも寿命のようなものがあり、最も短命だったアルディピテクス・ラミダスの10万年から、最長命だったホモ・エレクトスの175万年など色々ある。現在我々の「種」も、19万5千年前に誕生したが、このまま環境破壊など続ければ『奢れるもの久しからず』で、歴史が示すように、必ず滅亡の時を迎える。それゆえ、もし現在の人種から、更にバージョンアップした「新種」が分化しなければ、地球上から「人類」という種は滅亡する。

人類の新種とは、例えば各国の「エゴ」で地球温暖化が進み、それに耐えるため身長3尺、体重30

kg。放熱のため、頭に「トサカ」でも生えてきたなら、これは人類の新種とみなされる。海面が100尺ほど上昇し、日本沈没どころか世界沈没をきたし、両極圏や、ヒマラヤの山中にだけ生存できる「新種」なら、お見事な進化だ。

さて人類とは、あたかも平和と愛に満ちた、ユートピアを築くため、この世に命を授けられた「神の使い」みたいに宗教界では喧伝されているが、私に言わせると「何を仰いますか」と言いたい。人類とはそんな綺麗ごとで説明できる代物ではない。純粹に生物学的に、人類の行動を見る時に、「性善説」、「性悪説」など、そんな俗説に捉われずに、その行動を冷静に観れば、「縄張り」を主張し、己の生命の持続に全てをかける姿こそ、その生き物の本性といえる。それはバクテリアから昆虫・魚類・植物・高等哺乳類全てに通じた生命の原則である。なぜならば、現在生きている全ての生き物は、そのようにして生き残った原始のただ一個の単細胞生物の子孫だからである。

*・1928年、フレミングは、青カビが、ペニシリンという物質を分泌して、同じ栄養分を奪い合う周囲の球菌などを殺すことを発見し、抗生物質時代の幕明けとなった。全ての生き物は、喰うか食われるかの戦いで明け暮れしている。

そもそも、今から40億年前、この地球上で、浅い海の底に単細胞の生物が誕生した。細胞分裂を繰り返し、仲間は増えていった。増えていくと食糧の奪い合いとなる。生き抜くためにそれぞれ環境の変化に応じ、仲間は、姿や機能を自在に変化させて「多様性」をもたらした。現在、この世に生きている全ての生物はその子孫であり、いわば「同胞」である。にもかかわらず、原始生命は、とにかく自分が生きるために、周囲の栄養になりそうなものは何でも取り入れ、細胞分裂した仲間さえもエサにし、カスは捨てた。原始生命だけではなく、後に進化した全ての生き物は、この原則から逃れることはできない。悲しいかな「共食い」現象であ

る。

大きな「眼」で見れば、この現象は、これまでの人類史のどの時代にも見られ、大は国家間の「戦争」、小は隣近所の小競り合い、職場のパワハラなど、全てこの概念に相当する。権力闘争・序列闘争など戦いの連続である。動物界の縄張り争い・植物の枝や根を張って一定空間を占拠する基本姿勢。これらは全て他を生贄にし、まず自分だけが生き残ろうとするドーキンス博士の言う「利己的な遺伝子」の根本姿勢である。全ての生き物の遺伝子は、己のコピーを増やすことに専念し、生き物はその遺伝子の安全継続のため、盲目的に操縦されている。人は、どんなに偉そうなことを言っても、基本的にはこれら遺伝子に操られている「道化師」のようなもの。

③脳の巨大化が「がん」を引き起こす

人類の♀は、進化の過程で、発情期の表現を消した為、♂はいつでも交尾可能となった。すると♂は、随時精子を供給する為に、常時細胞分裂を促し、過剰に増えた細胞は本来除去されるシステムを排除して、精子を異常増産する「型」を獲得した。すると細胞分裂を抑制する遺伝子が機能しないがん細胞は、このシステムをチャッカリ借用して、無尽蔵に細胞分裂をするようになった。他の動物に比べ、季節性がなく、セックスの回数の多い人類は、がん多発という、とんでもないリスクを背負い込んでしまった。進化医学では、何と「大脳の巨大化」が、同じく「がん」を引き起こす要因になっているという。

人類は700万年前にチンパンジーの共通祖先(脳容積400cc)から分岐して、直立2足歩行を始め、以降250万年間の「猿人時代」には、わずかに脳容積は50ccしか増加していない。しかし、それからほぼ400万年間の「原人時代」に、石器の発明・改良や言語の発達などにより、一気に、550ccも脳容積を増やし1000ccにも達した。そして、原

人時代の末期から旧人時代・新人時代のわずか50万年間に、400ccも増え、現在1400ccの巨大な脳を獲得した。そしてその巨大な脳が、加速度的に今日の文明を発展させた。

*・最後の原人ホモ・エレクトスから、ほぼ30万年前に分岐したネアンデルタール人は、同じ親から分岐した後輩の我らホモ・サピエンスより、脳容積は100ccも多かったが、なにが原因かわからないが、今から2.5万年ほど前に突然この世から消えてしまった。我らホモ・サピエンスとの混血も行われたようなので、生存競争に敗れた…とばかりは言えないようである。もしかしたら「種の寿命」などというものがあるのかも知れない。

さて人類は、脳容積を増大させたことにより、偉大な文明は発展したが、反作用的に「がん」のリスクも急拡大した。それは脳の容積を発展させた遺伝子が「がん」になりやすい条件を生み出してしまったからである。それはFAS(脂肪酸合成酵素)という「細胞膜」の原料となったり、脂肪をエネルギーとして蓄積するのに使われる酵素である。FASは脂肪組織、肝臓、そして脳で盛んに活用されている。なぜ脳で?…と疑問に思われるかもしれないが、脳は神経細胞の塊のようなもので、神経細胞同士を電気信号で繋いで「知覚」などを生み出している。細胞同士を繋ぐのは「軸策(じくさく)」であり、「髄鞘(ずいしょう)」という膜で覆われている。髄鞘は、絶縁体様の働きがあり、信号の混線を防いでいる。FASはその髄鞘を作る必須の酵素である。問題は、がん細胞がこのFASを積極的に活用して、がん細胞の膜を作るためにFASを盛んに利用している事だ。更に、FASにより作られたがん細胞の膜は、アポトーシス(過剰に増えた細胞に対しての自殺命令)を撥ね退ける能力も存在する。恐るべきがん細胞の巧妙な生き残り戦術。人類の長い歴史の中で、遺伝子変換を起こし、生存に有利に変換した機能を、がん細胞はチャッカリ利用している。

人の命をいつも狙っている「外患」の微生物と、「内憂」のがん細胞は、正に厄病神だ。もしかして、これらは人類という個体数を無限に増やさないための自然の摂理としたら、あまりにも厳しすぎる掟というほかない。

地球を一つの生命体と考えたなら、人類は文明を異常に発展させ、自然を破壊し、異常繁殖し、バランスを崩す寄生虫のようなもの。それゆえ、「がん」は、ポピュレーションのバランスを維持し、正規に戻す為に神が与えた強烈な「鉄鎚」なのかもしれない。あるいは、文明が進歩したとは言いが、有害化学物質など大量生産する「ならずもの」の人類に対し、『調子込むんじゃないよ…』との神様の警告なのかも知れない。

④グレートジャーニーが「がん」を招く

アフリカで誕生した人類は、今からほぼ7万年前、生まれ故郷のアフリカを飛び出し、世界各地に拡散した。ヒマラヤ山脈の北周りで、中央アジアに進出したグループの一部は、更にシベリアまで進み、1万5千年前、氷河期で海面が今より90%も低かったので、ベーリング地峡を渡り、北米へと進み、更に瞬く間に南米チリの先端まで歩を進めた。一方ヒマラヤ山脈の南周りで進出したグループの一部は、インドネシアの島々が大陸と陸続き（スンダランド）だったのでオーストラリアまで足を延ばす事ができた。

更に南周りの一部は東南アジアへと進出し、今の日本列島へは「南方系縄文人」として定着し、極東から樺太を経た「北方系縄文人」と共に、日本列島には凡そ10万人の縄文人が生息し、平和な生活を送っていた。所がアジア大陸の戦争難民である弥生人が今から2900年前頃から、短期間に100万人も一気に押し寄せてきて縄文人と混血し、日本人の基礎となった。

出アフリカ後、世界各地に歩を進めた偉大なる人類の旅路を「グレートジャーニー」と呼ぶ。私

も人類の祖先の偉大なる勇気ある旅路を称賛して、2012年6月「遙かなる旅路」と題し、一冊の本にまとめ発行した。ところが13年5月、英国のパーミンガム大教授アリス・ロバーツ医師が、私と全く同じ題名・同じ内容で、500ページの大作を発表・和訳刊行された。こんな偶然もあるものかと真に驚かされた。

人類が誕生したアフリカは、赤道直下で紫外線が非常に強い。有害紫外線は細胞のDNAを破壊する。生命誕生以来、単細胞から多細胞に進化しても30億年間、生物は海から外に出れば、紫外線によるDNA破壊のため上陸できなかった。所が海中植物は、日光と炭酸ガスと水から炭水化物を作り、余った酸素を吐き出した。その酸素原子が3個くっついたものが「オゾン」である。海中植物が30億年間放出し続けた酸素がオゾン層となり、有害紫外線を吸収してくれる。そのおかげで長年海中に留まっていた生物は、一気に上陸が可能になった。（生物に最も重要なオゾン層を今、愚かな人類は、フロンガスなどで破壊している。）我々脊椎動物も、魚類から両生類に進化し、鰓を肺に、鰭（ひれ）を足に進化させ上陸を果たした。

さて、人類と親戚にあたるチンパンジーは、同じ赤道直下に生まれながら、皮膚の色は白い。黒く厚い体毛が、有害紫外線（UV・A）を防いでいる。ところが人類は、進化の過程で突然体毛を失った。そのため皮膚細胞がメラニン色素を生産して紫外線を防御する事となった。そしてアフリカを出た黒人は、現在でも緯度の高い所に住めば、ビタミンDを作る有用な紫外線（UV・B）を濃厚なメラニン色素がシャットアウトする為に、くる病・骨軟症・骨粗鬆症・手足のしびれやけいれんなどを引き起こす。有害紫外線から身を守るためにメラニン色素細胞を発達させた人類は、高緯度にまで進出したために、有用な紫外線を吸収できず、ビタミンD不足を招き、幾多の病を背負う事になった。あちらを立てればこちらが立たず。

ビタミンDは、腸からのカルシウム吸収を高め、更に免疫システムを強化し、がん発生率を低下させている。事実、米国では北部の州は南部の州に比べ、大腸がん・乳がん・膀胱がん・前立腺癌などの発生率が2～3倍も高い。大腸がんは、動物性脂肪食が多いと発生率が高くなるが、南部は北部より動物性脂肪食が多い。逆に北部は大腸がんになりにくい野菜食が南部より多いが、大腸がんの発生率が高い。このことは、北部はいかに、免疫強化のビタミンDが少ないかを意味する。

さて逆に、アフリカを出て世界各地に進出したホモ・サピエンス（すべて黒人）は、緯度の高い所に移住すると、長い年月をかけメラニン色素は減少し、白人化していった。中間緯度地帯に定着したのが我々黄色人種である。緯度の高いところは、有害紫外線が少ないため、自然とメラニン色素が不要になった。そして、カナダや北欧などにまで白人は進出したが、太陽からの有用な紫外線は薄く、ビタミンD不足をきたし、骨軟症や骨粗鬆症のリスクを背負う事になった。

人類に必要なビタミンは13種類あるが、殆どは食物から取り入れるものである。しかし唯一ビタミンDだけは有用な紫外線の助けにより、体内で製造出来る。ところがその有用な紫外線は、緯度が高くなると、非常に薄くなり、骨軟症などが起きやすい。

更に会社など室内生活や、美容のため日傘や、日焼け止めクリームを多用し、衣類で肌を露出しないなどで、益々ビタミンD不足→骨粗鬆症多発。免疫力低下のため、がん多発をきたし、日本では医療行政に多大の国家財政を注ぎ込んでいる。国は治療費補助ではなく、日光にあたり運動するなど、予防医学に予算を重点配備すべきである。

*・カナダ北部に住むイヌイットは、黄色人種である。移住してからの時間がわずか一万年そこそこなので、まだメラニン色素製造細胞が減少していない。しかし彼等は、緯度の高い所に住んで

いるにもかかわらず、ビタミンD不足による骨軟症など見られない。理由は鯨類など動物の生肉や内臓から存分にビタミンDが得られるからである。しかし、世の中は皮肉なもの。シーシェパードのように、海生哺乳類の捕獲を善しとせず、嫌がらせなどする輩もあり、イヌイットは最近、鯨など海生哺乳類の捕獲が減少し、ビタミンD不足が見られるようになったとの事である。

また、17～18世紀、オーストラリアに白人が移住したら、太陽光が強いのにメラニン色素が少ないため、皮膚がんが大量発生している。オーストラリア白人は、毎年発生するがんの80%は皮膚がんである。一生のうち三人に二人は皮膚がんになるという。

⑤文明の進化が「がん」を呼ぶ

二人に一人はがんになり、三人に一人はがんで死ぬ。これは避ける事のできない運命であった…などというのは言い逃れ。がんになる要因は、産業革命以来、大変智慧のある(?)人類がセッセと作り上げた人為的な所産だ。

その一例がタバコである。タバコはコロンブスなどがヨーロッパに持ち帰ったアメリカ大陸先住民の麻薬である。後、第一次世界大戦などで、戦場の兵士の恐怖感や、空腹感を緩和するために喫煙を奨励したという。更にタバコは、歯痛等、万能鎮痛薬のように使用され、驚くべきことに「がん」さえもバコで治せると考えられた経緯があったという。がんを引き起こす厄病神なのに…。その後タバコは、あらゆる職場で、また、労働者達が単純作業のストレス解消に多用されるようになった。今や肺がんは、わが国では男性のがんの中で一番多い。

ガンだけではなく今、中国やインドがPM2.5でスッタモンダしているが、日本もかつて四日市喘息・水俣病など、悲惨な公害の歴史を歩んできた。公衆衛生の普及などで感染症が減る一方、運

動不足の上、食事やたばこなどからの生活習慣病が増加し、心疾患や脳血管障害が急増している。

更に人類は何を血迷うたか昼夜の逆転。不夜城に働く人口が増えた。睡眠促進ホルモンのメラトニン不足をきたし、睡眠障害を招き、免疫力を低下させている。夜間勤務の看護師はメラトニン不足から乳がん発生率が昼間勤務者の数倍高いなどはっきりしているのだから、しっかりその対策を講じなければ、医療制度は成り立たなくなる。文明が進むほど人間は愚かな行為を繰り返す。とにかく産業革命以来人類は暴走を続け、自らの首を絞める行為があまりにも目立つ。

更に業績云々から職場でストレスが増え、精神を病み、自殺が増加している。社会が複雑化・巨大化していくと、個人の健康よりも、組織の業績が重要視される。自由競争とかグローバル化など、好むと好まざるに関係なく巨大な圧力で押し流される。その陰には必ず隅に押しやられ、抹殺される犠牲者が無数に増える。これが智慧ある人類の行動といえますか？

人間は小単位の家族や組織なら助け合い、紳士的に行動するが、組織が大きくなると、とんでもない凶暴性を発揮する。国家間の醜い争いは、角の巨大化に歯止めが利かなくなると、絶滅していった「オオツノシカ」によく似ている。他を征服して巨大国家を作ろうとするような妄想は、叡智を持ってコントロールするシステムの育成が必要である。現在、世界の民主主義は、ヨチヨチ歩きの幼児期に見える。

⑥脳卒中を招いた進化の代償

脳卒中は脳細胞そのものが原因ではなく、脳に酸素や栄養を送る血管に欠陥があるから起きる。人類の脳は進化の初期は緩やかな発展をしていたが、200万年ぐらい前から、急に脳が巨大化を始めた。所が、栄養など後方支援する血管構造がそれについていけなかったことが悲劇を招いた。現

在1.4kgの脳味噌に十分な血液を供給するためには、それ相応の丈夫な血管が必要である。ところが、脳の拡大が早過ぎたので、管壁の厚い太い血管が進化する暇がなかった。そのため、ひ弱な血管が猛烈に血液を送らなければならず、血管が枝分かれする部位など高い血圧により腫瘍ができ、破裂しやすくなり、脳出血を起こす。出血すれば酸素や栄養が届かなくなり、脳細胞は死ぬ。或いは出血した血塊が健常部位を圧迫し機能しなくなる。もし呼吸中枢など圧迫を受ければ、即死である。対策は一刻も早く開頭し、血塊を除去する事だ。脳細胞は酸素の供給がほんのわずか停止すれば決定的なダメージを受ける。半身麻痺など非常に多い。手術は時間との戦いである。また、出血しなくとも血栓で細い血管がつまり、梗塞を起こせば、その先の部位に新鮮な血液を送れなくなる。大小様々の脳梗塞を起こす。それが「まだらボケ・本格ボケ」へとつながる。

脳は体重のほぼ2%であるが、15%もの血液を常時必要としている。それだけ脳は多くの酸素とエネルギーを必要とする臓器なのだ。そして、頭にきてカッカカッカしている時には、体温より2℃以上も脳温が上がり、正常な判断ができなくなる。神経伝達機能が混線するからだ。『頭を冷やして、出直して来い』とよく言われるが、血液は、栄養などを運ぶ他に、プラス・マイナスの体温を運ぶ装置でもあり、冷却水の用も為す。いわゆる脳は水冷エンジンなのだ。頭に来たら脳を冷やす時間をとる事。良しにつけ悪しにつけ、脳は活発に活動すれば、脳温はすぐ上昇し、そして、血管の壁は非常に薄いので、すぐ破裂しやすい事をお忘れなく…。なお、受験勉強など、休憩なしのガリベンには、脳に疲労物質を溜めるだけで、効率が上がらない。大事なことは睡眠をたっぷり取る事。

⑦進化に関する四方山話

これまで人類は、格段の進化を遂げ、偉大なる

文明を築いてきた…と言われるが、果たしてそうであろうか。文明を築くとは、聞こえは良いが、母なる地球をほじくりかえし、トンネルや構築物をむやみやたら造り、天空には偵察衛星などが乱舞。水や空気を汚しただけ…と言えなくもない。万里の長城（2400km）は、月から肉眼で見える唯一の地球上の人工構築物。歴代皇帝の猜疑心の塊のようなもの。自然破壊のシンボルそのもの。人間に比べ、他の動物は、せいぜい巣穴を掘るか、蟻塚を作るくらいで、環境を根本的に変えはしない。人類は脳を膨らまし、無限に創造できると奢り高ぶって、地球を我が物顔で、好き勝手にひっかき回してきただけ…とも言える。

さて生物が、その種を維持するための「進化」とは、一体どんな意味があるのだろうか？ 地球は46億年前に誕生し、わずか6億年後、今から40億年前に地球を構成する物質から「生命」は誕生した。場所は浅い海の底。その生命の本質たるや、なんとも紳士的ではない。自分だけ生き残ればよい…とする利己的な遺伝子が支配する単細胞の生命体である。他の命も奪う、いわば「共食い」さえも辞さない残虐性を帯びた生命体である。現在地球上に生きている全ての生物は、この「原始生命」の子孫である。

進化とは？ 要するに己のDNAを、間違いなく次の世代に引き継ぎ易く変化していく事。

生き物とは、哀れ悲しや使い捨てのDNA運搬役。

DNAとは、何様のつもりか？ とにかく自分が生き永らえるために、細胞という奴隷を酷使する横暴極まりない主…と考える他なさそうだ。

* * *

終わりにあたり、人類という生き物は、他の生物と特別にかけ離れた進化を遂げ、完璧に近い、言わば神様の課長補佐的な存在ではないと言う事。便利と思ひ、要らざるものをむやみやたら造り、生存を脅かす環境汚染。それどころか、大きな地

震があれば、脆（もろ）くも崩れ去る罅（ねぐら）や、水際に生活の根拠を置き、簡単に流されたりする。水陸空で、危険な乗り物が氾濫。挙句の果てには、全ての生物が生存できない原水爆などという超危険物を作り、その使用を制御もできない未成熟の良心。万物の霊長とか言って威張っているが、それほどものではないということ。煎じつめれば、これから益々発展するであろう機械文明の汚染に、他の生物が順応できず、絶滅危惧種が増すばかり。産業革命が多くのがんを呼び込んだように、便利さは両刃の剣。機械文明の急速な発展が巡り巡って、人類滅亡につながらなければ良いと、ただただ祈るばかり。

進化についてしみじみ思うことは、人類だけが特別な存在で、肩肘張って他の生物を押しつけ、幅を利かして生きてる姿は、真に見苦しい。深い反省の上に、これからの時代は、全人類が心して慎ましやかに生きていくべきである…と強く主張したい。

(2014・3・30)

平成25年度茨城県獣医師会事業実施報告

1. 「平成25年度茨城県動物愛護月間事業」への協賛

平成25年度動物愛護月間に実施した、茨城県保健福祉部主催の動物愛護事業に共催し、動物愛護思想の啓発普及に努めた。

1. 『動物愛護フェア』

<第1部>

①パネル展

日時：平成25年8月27日（火）～9月1日（日）

場所：「茨城県立図書館」

②動物愛護講演会

日時：平成25年9月1日（日）

場所：「茨城県立図書館」

講師：兵藤哲夫先生（横浜市 兵藤動物病院院長）

<第2部>

日時：平成25年9月21日（土）午前10時～午後3時

場所：千波公園水戸黄門像広場及び周辺

【本会の事業実施内容】

- ①会員開業獣医師による動物の無料健康相談
- ②動物愛護標語ののぼりを掲げ、又、掲示板を設置しマイクロチップ等の啓蒙普及を行った。
- ③一般来場者にチラシ、リーフレット、また啓発用グッズをセットにしたイベントバッグを配布し、動物愛護思想の啓発普及に努めた。

【無料健康相談】





【マイクロチップ啓発】



2. ブロック・支部等による動物愛護啓発事業の開催

動物愛護思想の啓発普及を図るため、下記日程により各ブロック毎に開催された動物愛護フェスティバル等において、また、支部主催による動物啓発事業等においてペット無料健康相談及び飼い犬のしつけ方教室、譲渡会、講演会等を実施した。また、マイクロチップ普及のために、譲渡犬・猫へのチップ埋込みと日本獣医師会への登録を行った。

地区	開催内容	開催日	会場	譲渡犬猫へのマイクロチップ埋込み頭数
県北	ペット無料健康相談・マイクロチップ啓発しつけ相談等	平成25年10月6日	日立市かみね動物園内「動物フェスティバルinかみね」	実施なし
鹿行	ペット無料健康相談・家庭犬しつけ方教室等	平成25年11月3日	行方市「第7回なめがたあきんどまつり」会場内	2頭
県南	ペット無料健康相談・動物ふれあい事業等	平成25年10月20日	つくば市「産業フェア&農産物フェア」会場内	実施なし
県西	ペット無料健康相談・家庭犬しつけ方教室等	平成25年11月10日	常総市「常総ふるさとまつり」会場内	実施なし

【県北ブロック かみね動物園「動物フェスティバル in かみね」会場風景】



<写生会受付>



<写生会受付>



<クイズラリー>



<クイズラリー>



<クイズラリー>



<クイズラリー>



<クイズラリー>



<クイズラリー>

【鹿行ブロック 行方あきんどまつり内 会場風景】



<家庭犬しつけ相談>



<家庭犬しつけ相談>



<家庭犬しつけ相談>



<無料健康相談>



<譲渡会>



<マイクロチップ埋込み>



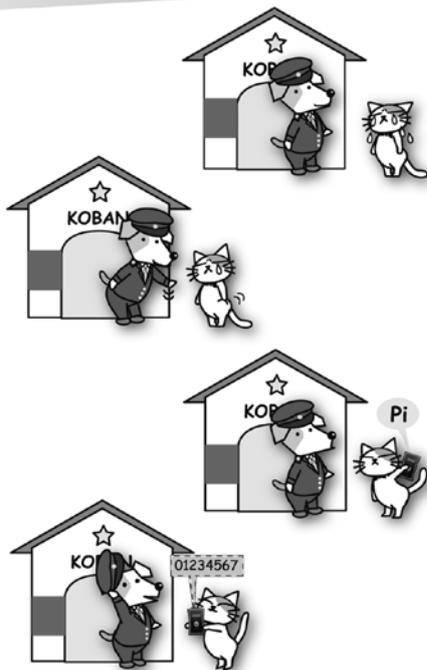
<ふれあい動物園>



<ふれあい動物園>

動物用 マイクロチップ読取器

プラネットID リーダー LC



- 小型・軽量で扱いやすい(約170g 電池含む)
- ワンタッチの簡単操作
- ISO11784・11785 規格のFDX-B マイクロチップに対応
- スピーディーな読取反応
LED ランプとビーブ音でお知らせ
- 高コストパフォーマンス
(アルカリ乾電池 9V 1個で 5,000 回以上読取可能)



■ 本製品に関するお問合せ先:
共立製薬株式会社 C A 営業本部
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-5
電話:03-3263-2933 FAX:03-3239-5433

輸入元:  共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南1-5-10

提携:  プラネットID (ドイツ)

【県南ブロック 産業フェア農産物フェア内 会場風景】



<無料健康相談>



<ふれあい広場>



<ふれあい広場>

こぼればなし

ボケ促進社会

こんな便利過ぎる社会は、「ボケ」の大量生産に繋がる。体も脳も使わずなんでも機械が処理。これでは脳細胞が自動的に縮小するだけ。JRのSuicaなど切符買うのに並ぶ必要なし。私鉄乗り継ぎも料金も気にせずスイスイと通過。高速道のETCも同じ事。人件費が省かれるので料金は割安。色々な公共料金なども自動振り替えで、働いて収入を得、吟味の上、計画的に支出する観念が薄らぐ。それにケイタイ&スマホ。しっかり言葉で意思を伝えたり、手紙で文字を書く習慣が全く廃れる。一億総白痴化の原動力。それが犯罪にも悪用され、振り込め詐欺やら交際関係で、財産や命を奪われたりしている。文明衰退の前兆か？

更にパソコンという便利過ぎるオモチャ。昔、辞書を引き引き文字を書いていたが、パソコンは漢字の羅列からクリックするだけ。とても手書きで文章は書けない。漢字は読めるが書けなくなった。更に図書館で勉強しなくとも、インターネット検索で何でも教えてくれる。百科事典も内蔵されており、音声・動画付きで、諸々の情報が得られる。昔、イミダスや理科年表で統計数字や、物理・化学の基礎数字など引き出していたが、今はマウスをクリックするだけ。そして「囲碁ソフト」。定石はずれの手などを打つと、機械は、まるで人間をからかうような、容赦ない手を打ってくる。冷徹な機械と付き合っていると、人間の機微な心理が読めず、ボケが進行するだけ。ボケ防止のつもりパソコンは、ボケ促進機械か？ (S・S)

【県西ブロック 常総ふるさとまつり内 会場風景】



<動物クイズコーナー>



<しつけ教室>



<ポニー乗馬>



<無料健康相談>



<無料健康相談>



<動物ふれあいコーナー>



<動物ふれあいコーナー>

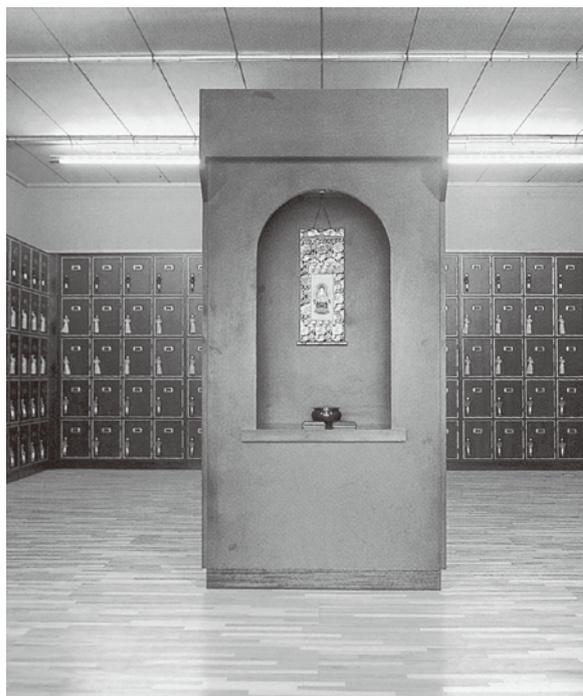
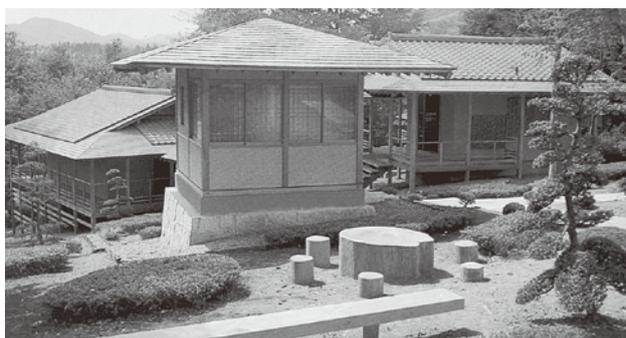


<ペットフード等配布>

永遠の安らぎの地

ペット霊園

慈苑



- 笠間の豊かな自然に囲まれた静かな霊園
- 営業時間
 - ・ 平日 午前8:30～午後5:00
 - ・ 土曜 午前8:30～午後4:00
 - ・ 日曜・祭日 午前8:30～午後4:00

● お問い合わせ・お申し込みは下記へ……

公益社団法人 茨城県獣医師会

茨城県水戸市千波町舟付1234-20

TEL 029 (241) 6242(代)

有限会社ケイエス慈苑管理事務所

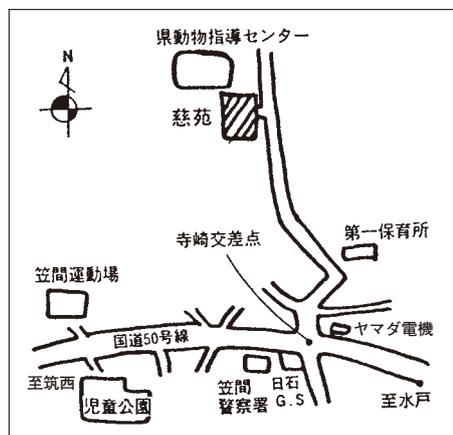
茨城県笠間市日沢46番地

TEL 0296 (72) 5834

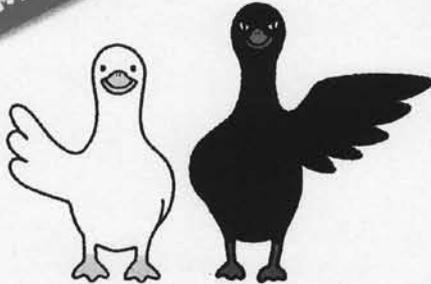
FAX 0296 (72) 9009

○時間外連絡先 090-5807-6344

「慈苑」ご案内図



新登場!



がんをきむ
病気や
ケガの
備えに

NEW
ちゃんと応える
医療保険

EVER

契約年齢:0歳~満85歳まで

入院前後の通院も保障!

■通院ありプラン 入院給付金日額5,000円 保険期間:終身

NEW! 入院	日帰り入院から 入院5日目まで	一律5日分	2.5万円	一生 涯 保 障
	入院6日目以降	1日につき	5,000円	
手術	■大手術 がんに対する開胸・開腹・開腹手術や 心臓への開胸術など 1回につき		20万円	一生 涯 保 障
	手術	入院あり 1回につき	5万円	
放射線治療	入院しなくても 1回につき		5万円	一生 涯 保 障
NEW! 入院前後の 通院	入院前も、退院後も 1日につき		3,000円	

月払保険料 【個別取扱】通院ありプラン 入院給付金日額5,000円
入院給付金支払限度:60日型 定額タイプ 保険料払込期間:終身

契約日の満年齢	40歳	50歳	60歳	70歳
男性	2,371円	3,594円	5,373円	7,921円
女性	2,226円	3,194円	4,615円	6,678円

2013年10月1日現在

プラス ニーズに合わせて特約をプラス!

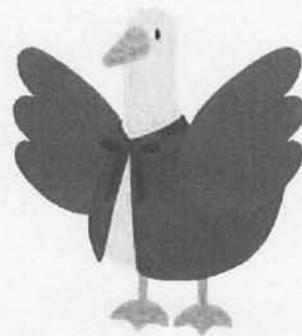
先進医療に 備えたい	■総合先進医療特約	3年ごとに 3万円の お祝い金	■生存祝金特約
---------------	-----------	-----------------------	---------

*ご案内の特約は(EVER)と同時に申し込みの場合に限り付加できます。

「医療保険」「がん保険」に付加する先進医療の特約は、被保険者お1人につき通算して1特約のみご契約いただけます。また、その他特約のご契約にも限度があります。保障の対象となる先進医療は、厚生労働大臣が認める医療技術で、医療技術ごとに適応症(対象となる疾患・症状等)および実施する医療機関が限定されています。また、厚生労働大臣が認める医療技術・適応症・実施する医療機関は随時見直されます。特約のみのご契約はできません。 ◎商品の詳細はパンフレット(契約概要)をご覧ください。

(引受保険会社)

「生きる」を創る。 **アフラック** (アメリカンファミリー生命保険会社)
東京第一法人営業部
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル19F
Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565



心配な
「がん」の
備えに

生きるための
がん保険 Days

契約年齢:0歳~満80歳まで

現代のがん治療に対応したあんしんの保障!

■スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円の場合
保険期間:終身 (抗がん剤治療特約)は10年更新

- 初めて「がん」と診断されたら
一時金100万円、
上皮内新生物の場合10万円
- 「入院」も「通院」*も日額1万円
日数無制限で保障
*三大治療(手術・放射線・抗がん剤)のための通院
- 抗がん剤治療は
通算600万円まで保障!

プレミアムサポート 訪問面談サービス 専門医紹介

※がん専門相談サービス(プレミアムサポート)は、株式会社法研が提供するサービスです。

月払保険料 【個別取扱】スタンダードプラン 入院給付金日額10,000円
定額タイプ 保険料払込期間:終身 (抗がん剤治療特約)は10年更新

契約日の満年齢	40歳	50歳	60歳	70歳
男性	4,526円	7,380円	12,192円	19,270円
女性	4,564円	6,148円	7,998円	10,572円

* (抗がん剤治療特約)は、所定の年齢まで10年ごとに更新があります。更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。 2013年10月1日現在

プラス ニーズに合わせて特約をプラス!

がんの先進医療に 備えたい	■がん先進医療特約	女性特有のがんに 特約 コサージュ	がんになったときの 収入減少のリスクに 備えたい	■所得サポート特約
------------------	-----------	----------------------	--------------------------------	-----------

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております)

三泉トラスト保険サービス株式会社

☎0120-357-212 FAX03-3572-7451

〒105-0004 東京都港区新橋2-20-1

AF広宣第 2013-0077-1310516 第9頁

Marbooyl®

動物用医薬品 要指示医薬品
マルボシル® 2%
1mL中 マルボフロキサシン 20 mg含有



マルボシル® 2%
【包装】100 mL

動物用医薬品 要指示医薬品
マルボシル® 10%
1mL中 マルボフロキサシン 100 mg含有



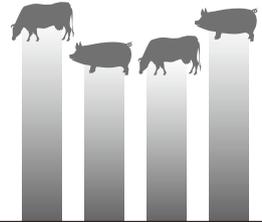
マルボシル® 10%
【包装】50 mL

- 静脈内投与(牛)及び筋肉内投与(牛・豚)が可能
- 筋肉内投与部位の局所変性を低減
- 短い使用禁止期間を実現 (使用禁止期間 / 牛:4日、牛乳:48時間、豚:4日)

- 動物専用のニューキノロン剤でマルボフロキサシンが有効成分
- 子牛・子豚から成牛・成豚まで、使い勝手で選べる2種類の濃度
- 牛・豚の細菌性肺炎、牛のマイコプラズマ性肺炎に優れた効果
- 優れた薬物動態により、速やかな体内分布を実現

Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋 2-4-16

新時代到来! 「牛・豚用注射剤」
マルボシル® 誕生



未来へ大切なものを伝えたい!



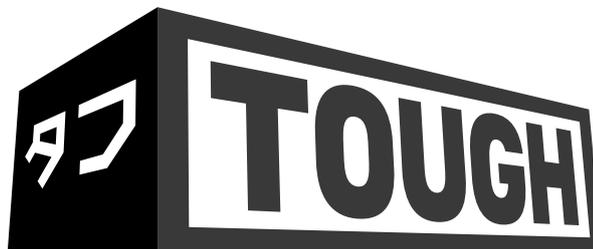
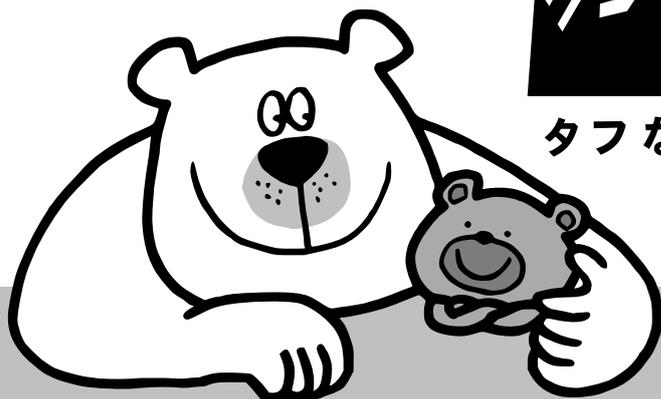
企画デザイン
印刷全般

(有)クリエイティブサンエイ

〒311-4302 茨城県東茨城郡城里町那珂西1879-5
TEL. 029-288-7778 FAX. 029-288-7801
URL. <http://www.c-sanei.co.jp/>
E-mail. sanei288@galaxy.ocn.ne.jp

立ちどまらない保険。

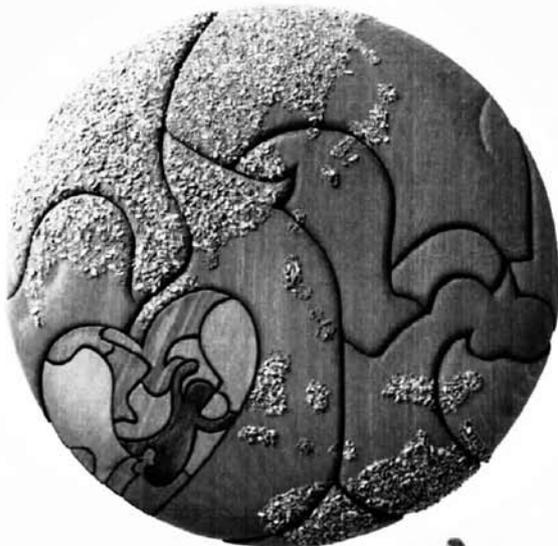
MS&AD あいおいニッセイ同和損保



タフな安心を、あなたに。

あいおいニッセイ同和損保 株式会社
茨城支店 水戸第二支社
〒310-0803 茨城県水戸市城南3-11-14
TEL: 029-224-2367

【取扱代理店】
株式会社 あいおいNDIサポートBOX茨城支店
〒310-0803 茨城県水戸市城南3-5-32
TEL: 029-226-3638 FAX: 029-227-1448



生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

ASCO



株式会社 **アスコ**
<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地

TEL 0532-34-3821
FAX 0532-33-3611

営業所 所在地

- ・中部支店
豊橋、安城、名古屋、浜松、
沼津、岐阜
- ・中国支店
広島、福山、山口、岡山、米子
- ・関東支店
児玉、大宮、前橋、松本、旭、
茨城、栃木
- ・東北支店
仙台、古川、福島
- ・関西支店
大阪、京都

ダイワハウスから茨城県獣医師会の皆様へ

平屋住宅から2階、3階建て、店舗併用や医院併用住宅までお手伝いさせていただきます。

住まいづくりの
参考になる
カタログプレゼント

どこまでも、心地よく。

いつまでも、安らかに。



新商品 xevo Σ
[ジーヴォシグマ]

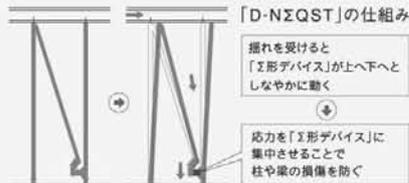


エネルギー吸収型耐力壁 D-N Σ QST

[ディーネクスト]

見えない安心を、いつもそばに。

持続型耐震という先進の性能を持つ「D-N Σ QST」。その鍵となるのは、ダイワハウス独自の断面形状を持つ「 Σ 形デバイス」です。強い揺れを受けると上へ下へとしなやかに動き、地震エネルギーを効果的に吸収。震度7クラスの地震に連続して耐える粘り強さを発揮し、構造体の損傷を防ぎます。



耐震 震度7クラスの地震に耐える。

吸収 「 Σ 形デバイス」の効果的な働きにより建物の揺れを早く収束させる。

持続 高い耐震性能を維持する。



かつてない大空間 グランリビング

こころのサイズも、ひとまわり広く。

xevo Σ の強靭さがかねる大空間「グランリビング」。その天井高は2m72cmで、空間にこれまでにない広がりをもたらします。柱が少ない空間は間取りの自由度が高く、将来の家族構成の変化にも柔軟に対応。また、幅3m45cmの窓を2枚連続で配置可能で、光あふれる住まいを実現します。

※敷地面積やプランにより対応できない場合があります。
※天井高は2m40cmの仕様もございます。



[売主]
大和ハウス工業株式会社 茨城支店
〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1194-24 TEL.029-246-0112
建設業許可番号・国土交通大臣許可(特-22)第5279号
宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣(14)第245号
(公社)茨城県宅地建物取引業協会会員
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟
www.daiwahouse.co.jp
森林育成紙TM使用 私たち大和ハウスグループは、「共創共生」の基本姿勢のもと、健全な森林育成のために、当チラシには森林育成紙TMを使用しています。

カタログ請求・お問い合わせは
住宅営業所
TEL 029-246-0112
営業時間/AM10:00~PM6:00 定休日/火・水曜
●茨城県獣医師会 担当まで

編集後記

平成26年度第1回目の会報（第81号）をお届けいたします。御投稿いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、前会報80号で、「病の起源」という本を紹介しましたが、非常に新知見が多かったので、今回、その一部内容紹介と、人類の進化について日頃考えている私見を、随筆部門で、かなり多くの紙幅で恐縮でしたが、述べさせていただきました。進化に付随した代償として、こんなにも多くの病を引き受けるとは…。進化は決して合目的的ではなく、全く偶然の出来事で、環境の変化にいくらかでも前より有利に働けば、生き残る確率が増すということなのでしょう。そして産業革命以降、人類はあまりにも多くの「病」を引き起こす原因を、自らの手で作り上げ、他の生物を絶滅の危機にさらし、万物の霊長と奢り高ぶる傲慢さは大いに反省すべきと、しみじみ感じさせられました。

本会報は、会員相互の連携を強化し、社会に貢献する絆を築くためのツールとする為、会員各位のご投稿をいただき、一層盛り上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。（菅原）

茨城県獣医師会会報編集委員

委員長	菅原茂美（勤務退職者支部）
副委員長	橋本邦夫（勤務退職者支部）
委員	田上宣文（担当理事）
	岡田康子（担当理事）
	川島邦子（担当理事）
	長谷川清（県北地区）
	久家美恵子（鹿行地区）
	稲葉豊範（県南地区）
	苦瀬秀雄（県西地区）
会報担当	比氣正雄（専務理事）

茨城県獣医師会会報

平成26年5月1日 発行

第81号

発行所 公益社団法人茨城県獣医師会
〒310-0851 水戸市千波1234-20
TEL 029-241-6242 FAX 029-241-6249
<http://www.ibajyuu.com>
発行責任者 小林貞雄
編集責任者 菅原茂美
印刷所 (有)クリエイティブサンエイ

人間だって、
動物じゃないか。



(人へのいたわりと、同じ気持ちで。)

違っているところよりも、似ているところが多い人間と動物。
だから、人間へのいたわりと同じ気持ちで、動物の健康を見つめたい。

あなたと同じ情熱で、動物の健康を守る。

わたしたちは森久保薬品です。

M 森久保薬品株式会社